

061124震災復興シンポジウム／神奈川大学横浜キャンパス 2 3 号館15:00～17:00

阪神・淡路大震災の復興まちづくり

-10年間のとりくみとわかったこと-

●■▲小林郁雄 KOBAYASHI, Ikuo
ikuo-ko@kcc.zaq.ne.jp

- 非認証NPOきんもくせい代表
- 神戸山手大学都市交流学科教授
- ▲人と防災未来センター上級研究員

自己紹介●■▲小林郁雄 KOBAYASHI, Ikuo

<ikuo-ko@kcc.zaq.ne.jp>

- 1944年 名古屋で生まれる Born in NAGOYA
- 1967年 神戸大学建築学科卒業 KOBE Univ.
- 1969年 大阪市立大学大学院修士修了/ 都市・計画・設計研究所UR
- 1986年 コー・プラン CO-PLAN Inc.
- 1995年 阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク

▲人と防災未来センター 上級研究員
the Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institution Senior Researcher
<http://www.dri.ne.jp>

▲神戸山手大学人文学部（都市交流学科）教授
KOBE-YAMATE University Professor
<http://www.kobe-yamate.ac.jp/>

●非認証NPOきんもくせいKINMOKUSEI 代表
神戸市灘区楠丘町2-5-20 〒657-0024 T:078-856-4190
KOBE-city Nada-ku Kusugaoka-cho 2-5-20

■阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク 世話人
Restoration from Hanshin Earthquake Disaster/SUPPORTERSNETWORK
for communitydevelopment “Machizukuri” Reader
<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gakugei/kobe/index.htm>



六甲台から見た六甲道火災地区East K O B E
1995Jan17 am6;00 from my home



六甲台から見た六甲道火災地区 East KOBE
1995Jan17 am7:00 from my home



六甲台から見た六甲道火災地区

1995Jan17 am8:00 from my home



Before Earthquake CO-PLAN







My office of CO-PLAN / East KOBE

Now new CO-PLAN



Near my office/ East KOBE



Now



East KOBE Rokko-michi JR stn.



震災復興市街地再開発事業

六甲道南地区 East KOBE Rokkou-michi JR stn. south

地区計画（平成12年12月15日決定）
・地区施設 街角広場、歩行者デッキ等

住宅(220戸) /
駐車場(187台)
事業費 約179億円

We Love, We Live
Welv
ウェルブ六甲道





Now

Opening Ceremony



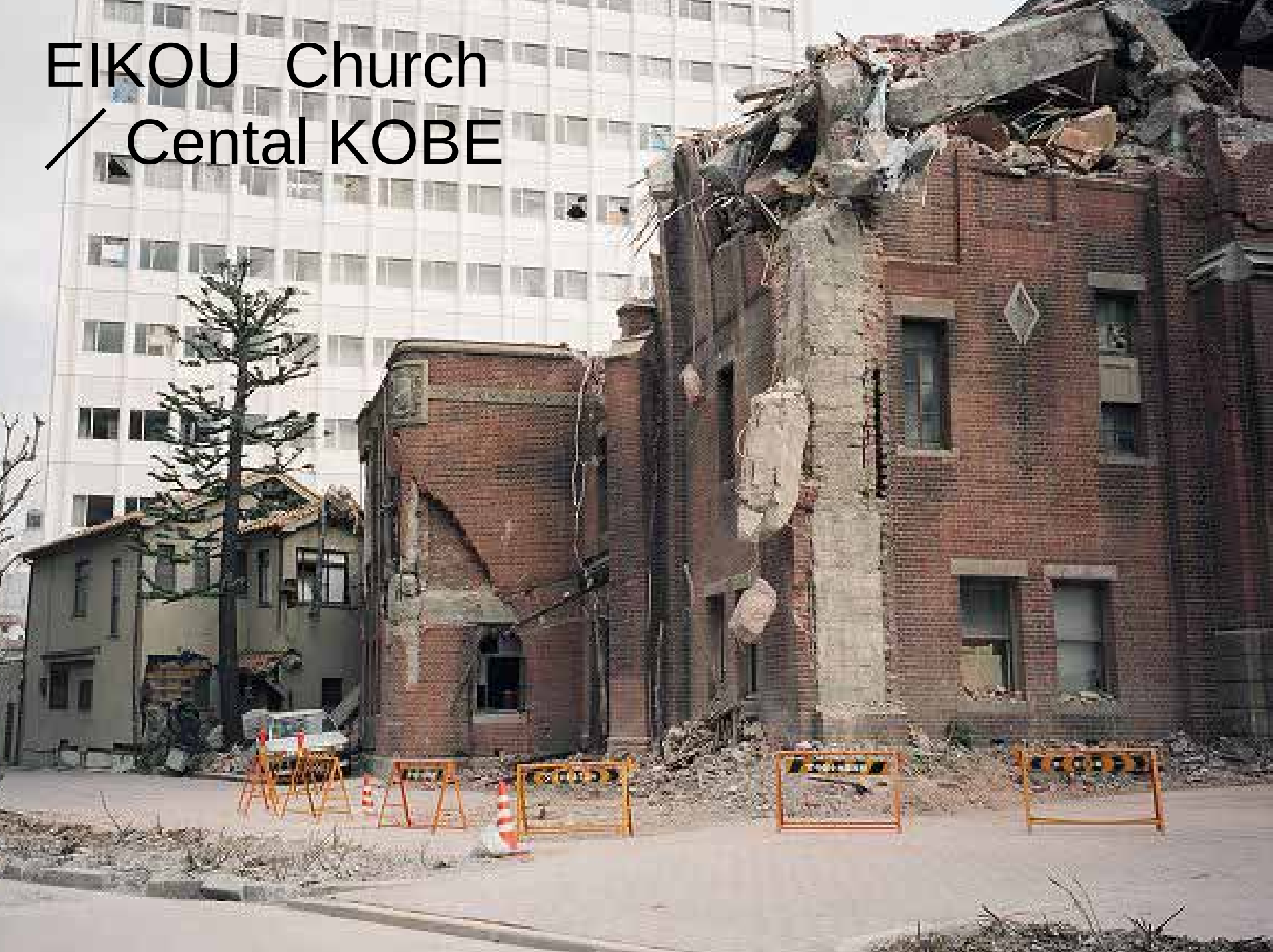


Sannomiya / Cental KOBÉ



Cental KOBÉ Now

EIKOU Church ／ Cental KOBE

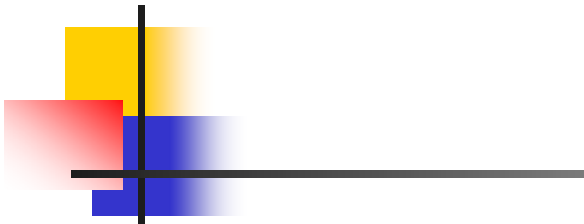


Now New Church

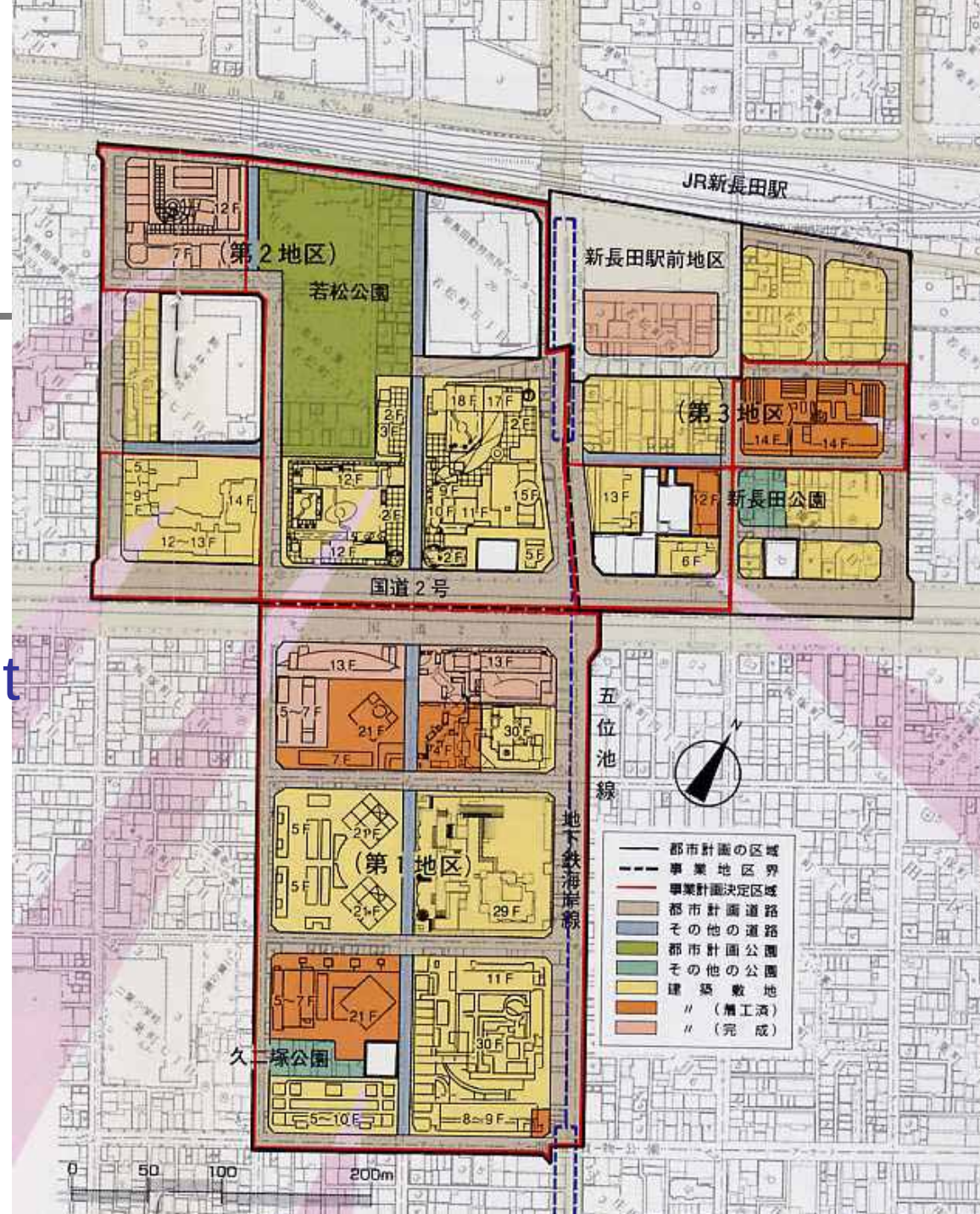


West KOBE Shin-Nagata JR stn.





West KOBE Shin-Nagata JR stn. South Re-development Recovery Project



Total Plan



Now





West-Kobe Nagata-ku Takatori

Now



Matyumoto / West KOBE



震災前 平成6年5月 Before the earthquake may 1994



震災後 平成7年5月 After the earthquake may 1995

After Earthquake, Matsumoto district



Now

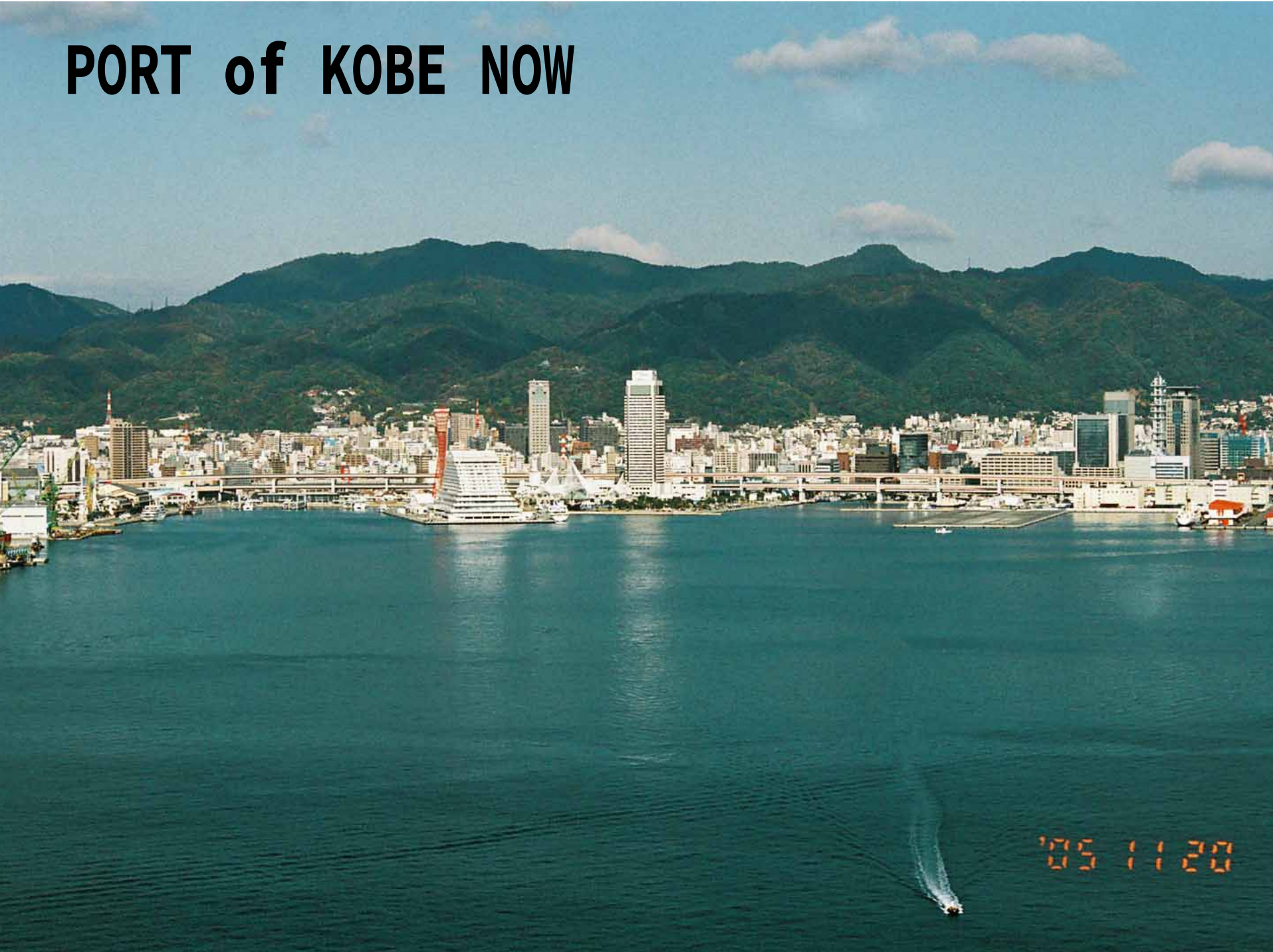


HAT KOBE Now



'05 11 20

PORT of KOBE NOW

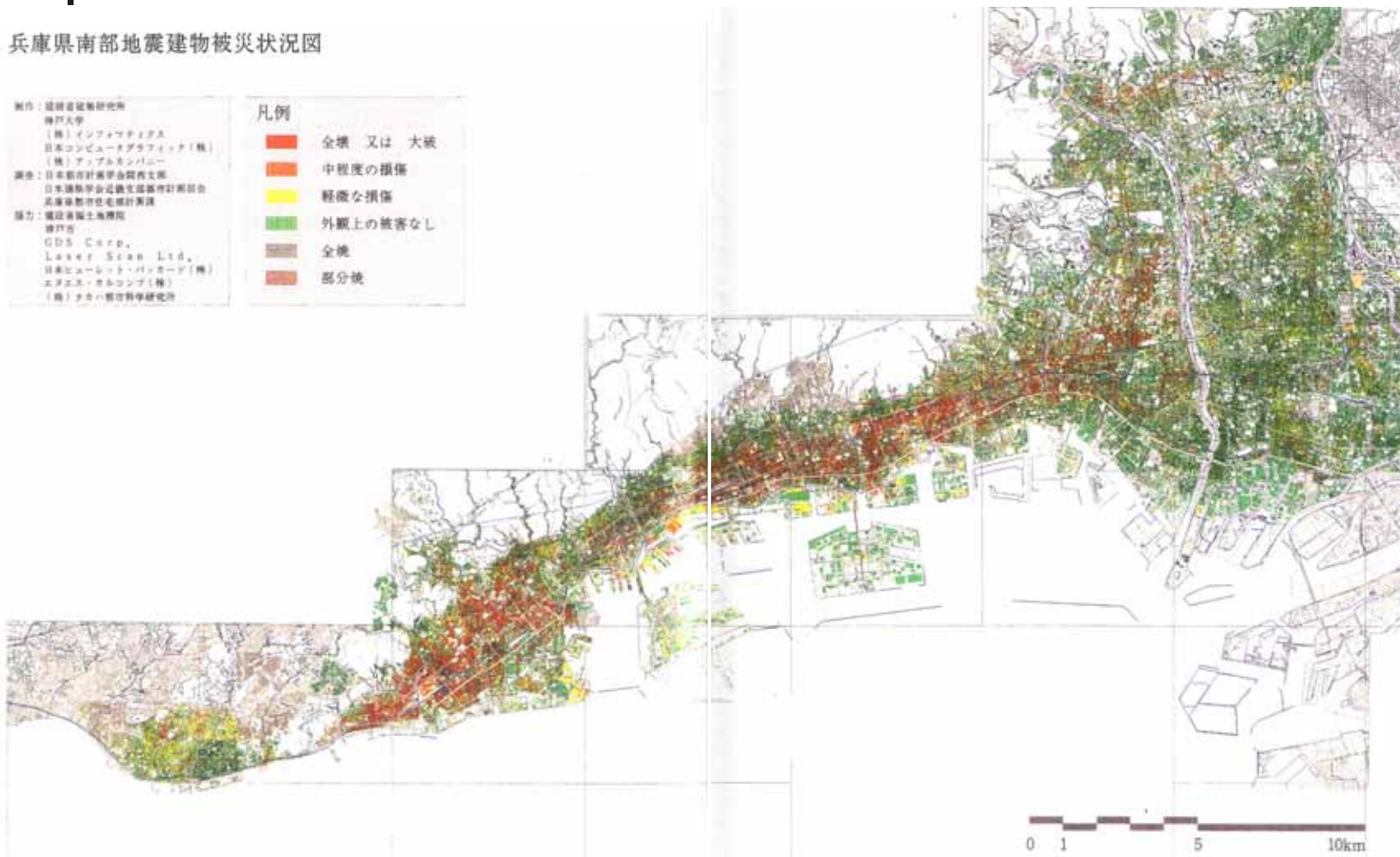


'05 11 20

被災度別建物分布状況図・全体

1995年2月1日～9日1次、2月10日～3月13日2次調査

兵庫県南部地震建物被災状況図



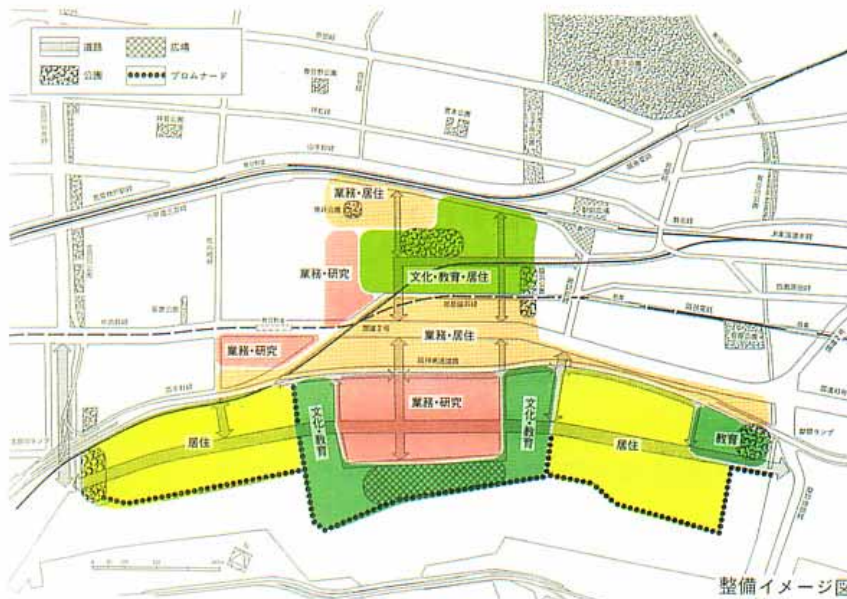


神戸市復興計画／めざすべき街の姿を

- 神戸市の復興計画（1995年6月30日発表）
 - 3月27日に発表された「復興計画ガイドライン」に基づく「安心・活力・魅力と協働」を復興目標に、2005年までの10年計画
- 「安全都市づくり」
 - 防災生活圏、防災都市基盤（防災緑地軸・防災拠点・ライフラインネットワーク）、防災マネジメント
- 「市街地復興計画」
 - 都心6・東部5・西部7の計18復興プロジェクト
- 「シンボルプロジェクト」
 - 震災以前から計画が進行していた東部新都心（HAT神戸）計画を筆頭に、重要で緊急的な計画17

シンボルプロジェクト

5. 東部新都心計画



17 のシンボルプロジェクト

市民のすまい再建プラン

安全で快適な市街地の形成

21 世紀に向けた福祉のまちづくり

安心ネットワーク

東部新都心計画

神戸企業ゾーン整備構想

中国・アジア交流ゾーン構想

21 世紀のアジアのマザーポートづくり

国際性、近代性などの特色を生かした

神戸文化の振興

多重性のある交通ネットワークの形成

次世代の情報通信研究のための基盤整備

[KIMEC 構想の推進]

地域防災拠点の形成

みずとみどりの都市づくり

海につながる都心シンボルゾーンの整備

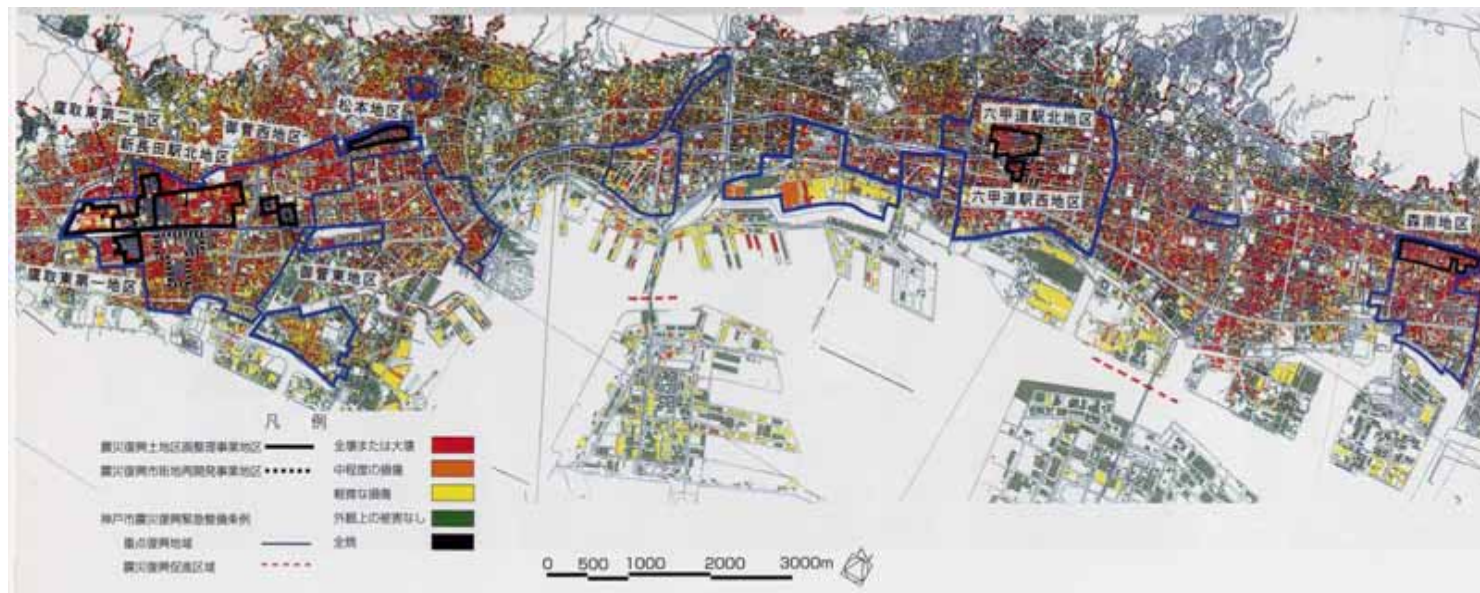
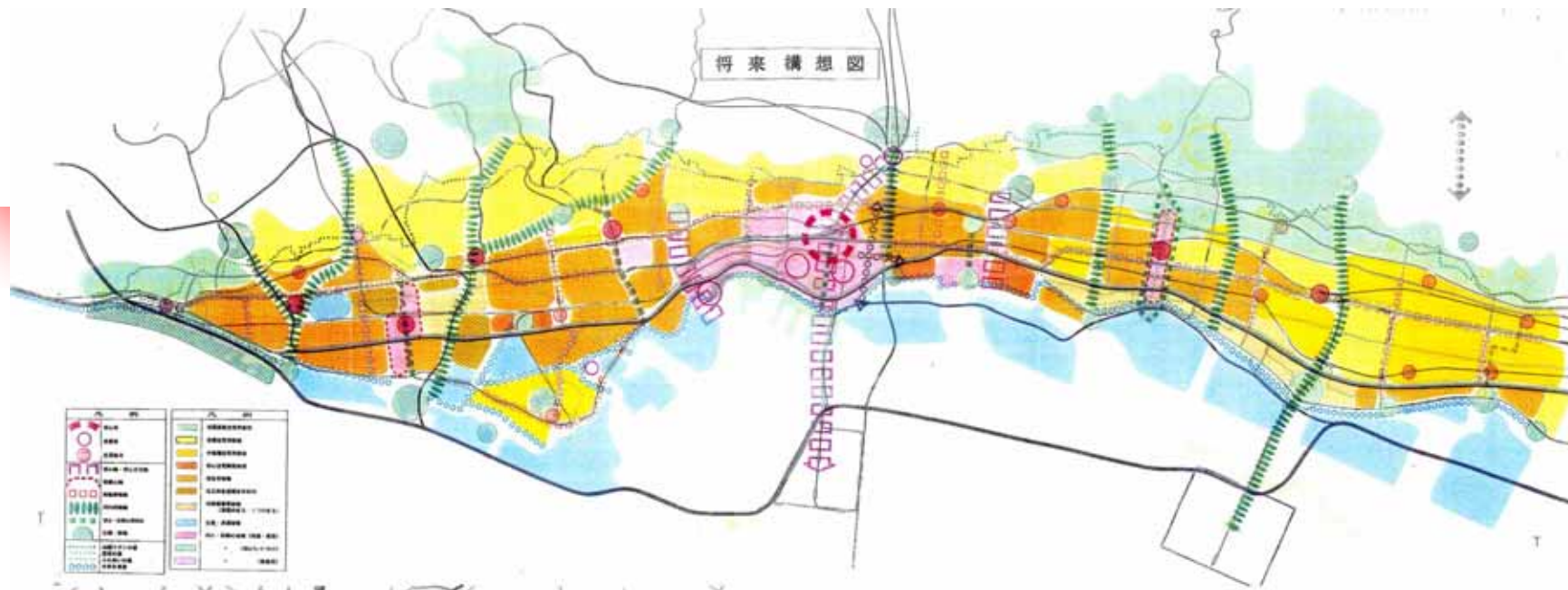
災害に強いライフラインの整備

災害文化の継承

災害科学博物館および20 世紀博物館群

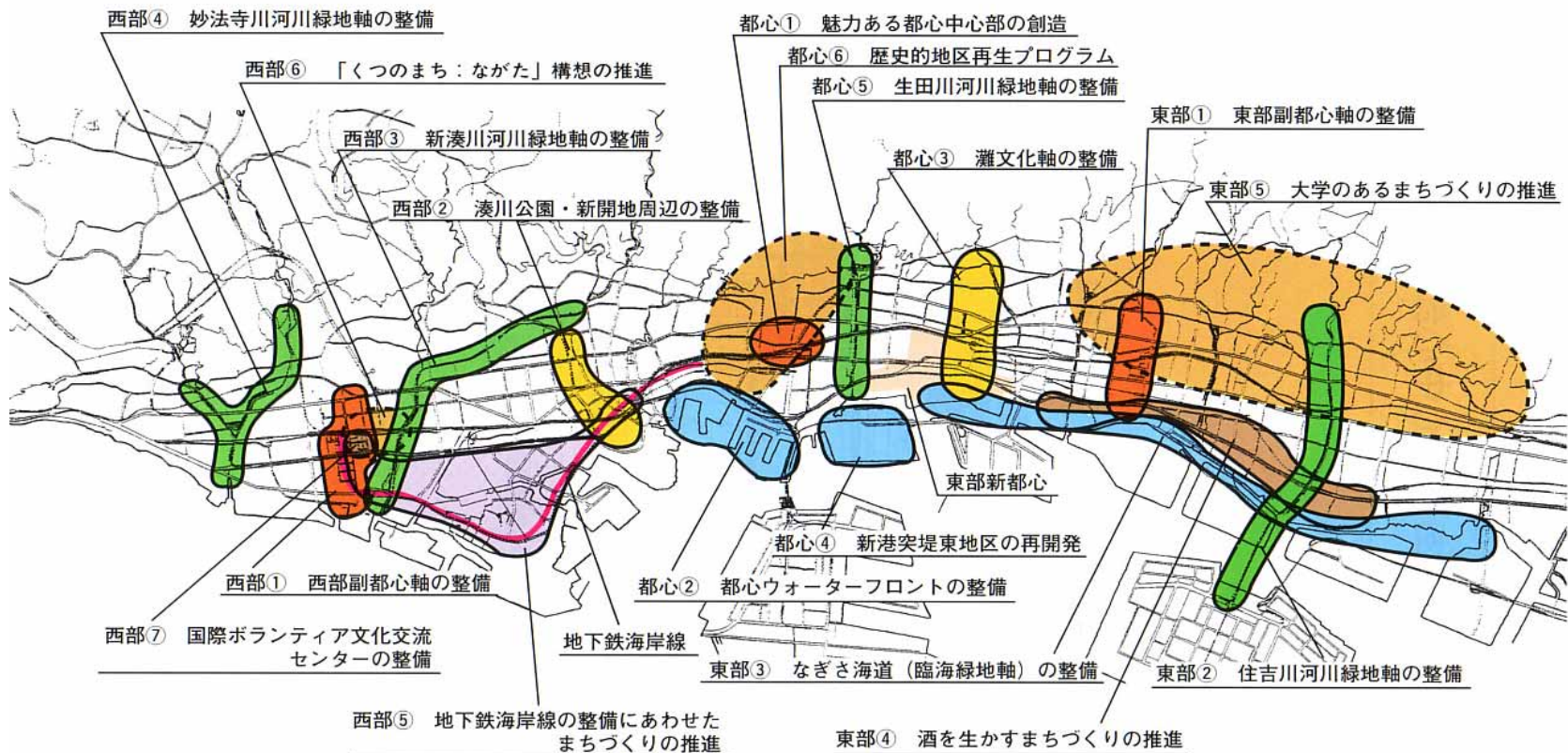
構想の推進

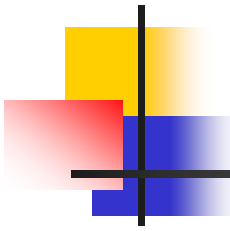




神戸市市街地復興計画

復興プロジェクト位置図





復興都市計画の枠組み Framework of Recovery Plan

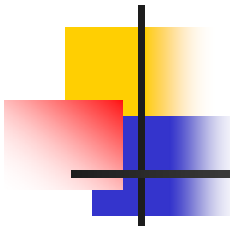
●復興都市構造計画 Structure Plan



●復興都市地域計画 Regional Plan



●復興都市計画支援 Support System



●復興都市地域計画

●復興都市地域計画

《地域構成計画—まちづくり計画》

復興重点地区計画 [アクションエリア]

→区画整理・再開発事業地区

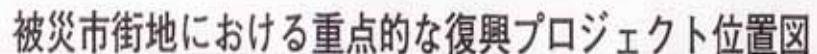
復興拠点地域計画 [プログラムエリア]

→重点復興地域

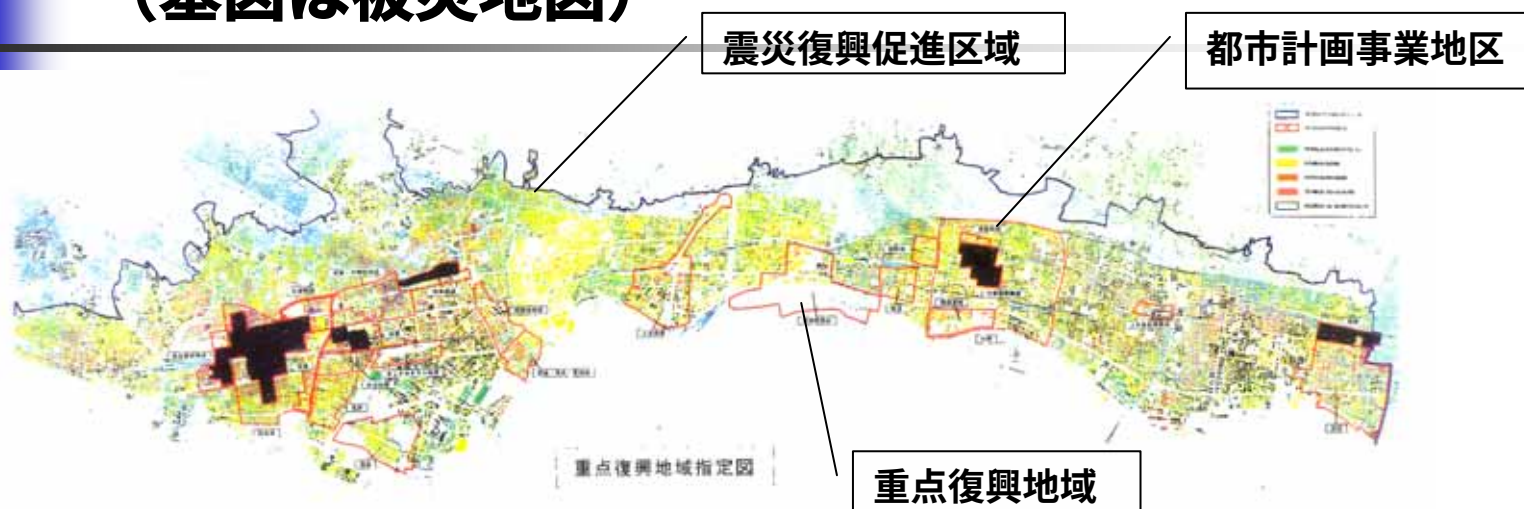
復興再生区域計画 [リハビリテーションエリア]

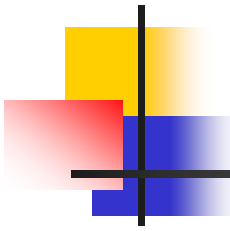
→震災復興促進区域

淡路地域



神戸市重点復興地域と都市構造計画 (基図は被災地図)





復興都市計画のプロセス

／事業→計画→構想

- 突然の非常事態においては、平常の「**構想→計画→事業**」というプロセスは逆転する。まず、緊急の地区事業が決定し、市街地の整備計画や道路・港湾・住宅など各部門計画が決まり、その後にやっと都市全体の復興構想が組み立てられる。
 - 阪神大震災でも、復興に向けてすぐさま覚悟すべき劇甚被災地区への都市計画事業が、まず決意された。
 - 次いで、被災市街地整備のための重点復興地域指定や公営住宅建設を中心とする住宅整備緊急3か年計画など、さまざまな部門計画が決められ、それらの総体としての震災復興計画が約半年後に策定発表された。
 - 具体的計画から抽象的計画へ、部門別計画を全体計画が後を追うというプロセスである。

復興都市計画の枠組み

／構造計画→地域計画←計画支援

- 震災復興都市計画は**市街地の地域計画**が中心である。
- 1. 土地区画整理事業と市街地再開発事業を前提としたアクションエリアである重点地区
- 2. 震災復興の拠点での重点復興地域（プログラムエリア）
- 3. 広く被災市街地全体の再生（リハビリテーション）をカバーする震災復興促進区域
- **既存の都市計画手法**を前提とした市街地の地域計画が復興の中核である。
- それを支える都市的な構造計画によって、全体的な都市構造からのチェックをする。
- そうした地域（構成）計画を実現するための**ソフトな計画支援**が必要不可欠である。

Community Support(一緒にまずすること)

ガレキに花を／市街地緑花再生プロジェクト

Flower Project in debris

- 阪神大震災 4 か月後の1995年5月末、**ガレキを耕して花の種を**まいた。暑い夏を耐えて秋に咲いた。
- 倒壊した家々が続く灘区楠丘・芦屋市津知では紅・桃・白や黄花**コスモス**が。全13箇所、約5000平方メートルであった。
- 灰燼と帰した長田区大道・鷹取では大輪のロシア**ヒマワリ**や可憐な銀葉ヒマワリが。

ガレキに花を／市街地緑花再生プロジェクト 灘区楠丘地区のコスモス Flower Project



ガレキに花を／市街地緑花再生プロジェクト 灘区楠丘地区のコスモス Flower Project



ガレキに花を／市街地緑花再生プロジェクト
灘区楠丘地区のコスモス Flower Project



ガレキに花を／市街地緑花再生プロジェクト
灘区楠丘地区のコスモス Flower Project



ガレキに花を／市街地緑花再生プロジェクト
灘区楠丘地区のコスモス Flower Project



ガレキに花を／
市街地緑花再生
プロジェクト
Flower Project

芦屋のポピー
(第2期)



ガレキに花を／市街地緑花再生プロジェクト
長田区野田北部地区のヒマワリFlower Project

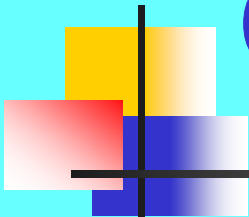


ガレキに花を／市街地緑花再生プロジェクト
長田区野田北部地区のヒマワリFlower Project



ガレキに花を／市街地緑花再生プロジェクト
長田区野田北部地区のヒマワリ





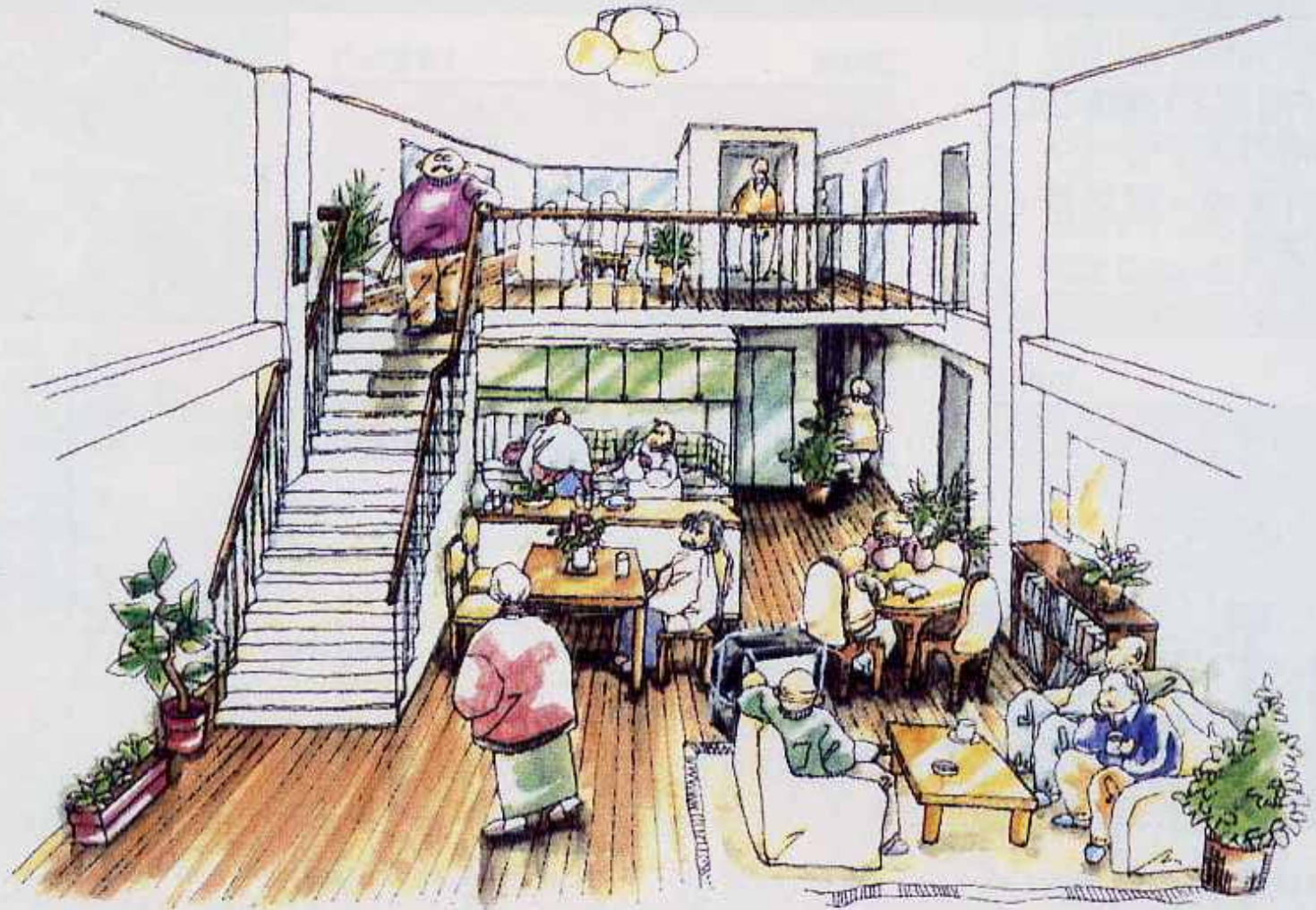
Community Support(集まって住む意味)

Collective Housing(ふれあい住宅)

Collective Housing とは、

- 協同の台所食堂や居間などコレクティブ部分（単なる共用部分ではなく、私的空間の一部を集めたもの）を持ち、
- そこでのコレクティブ生活を前提とした集合住宅である。
- 1999年4月までに阪神大震災被災地に10地区341戸の復興公営住宅で建設・入居した

コレクティブふれあい空間イメージ



応急仮設住宅地

Temporary Housing

西神第7仮設



応急仮設住宅

西神第7仮設

ふれあいセン ター



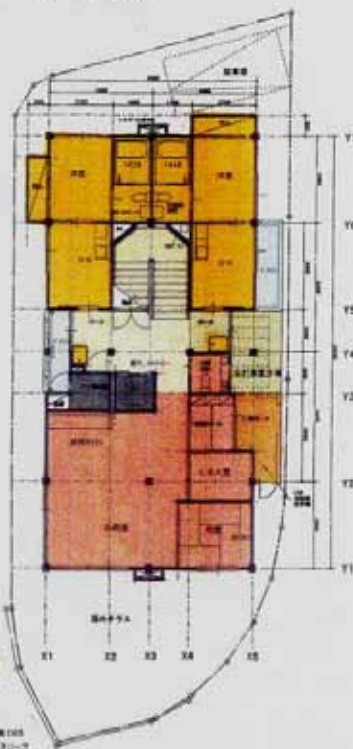
ひょうご復興コレクティブハウジング 災害復興 神戸片山住宅

完成予想図

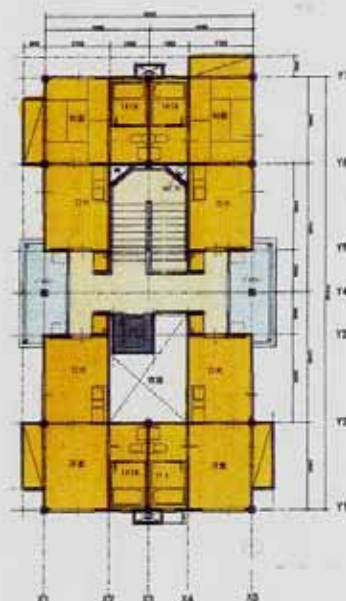


1階、2階平面図 (1:200)

(1階平面図)



(2階平面図)



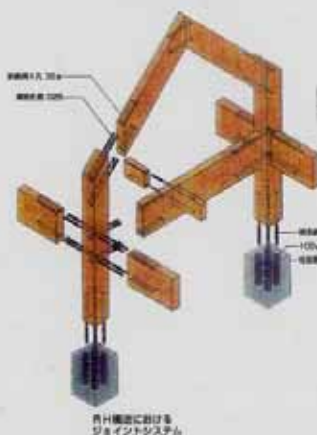
位置図



計画諸元

所在地	神戸市長田区片山町1丁目
戸数	高齢者単身用住宅6戸 (シルバーハウジング)
構造	木造2階建
敷地面積	323㎡
建築面積	159.54㎡ (建ぺい率: 49.4%)
延床面積	313.72㎡ (容積率: 101.2%)

木の肌を生かした
大断面木質構造



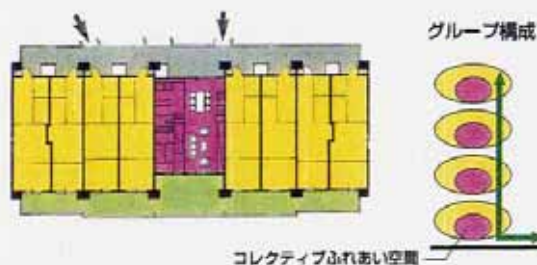
全電化住宅

平成9年3月完成予定

兵庫県都市住宅部



■大倉山住宅 SRC造14階建 32戸 (1~4階部分)



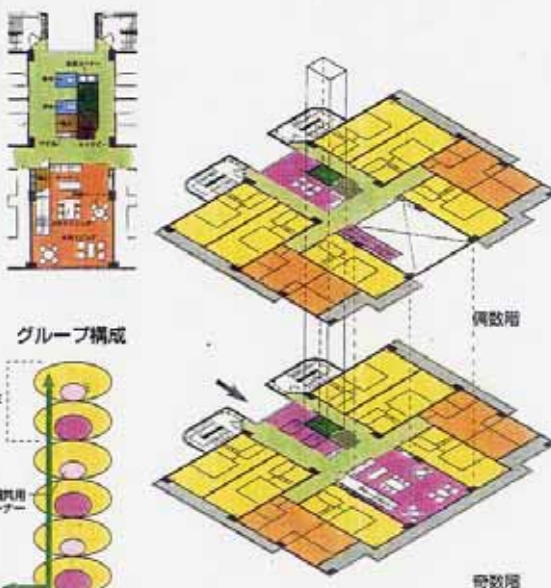
■片山住宅 木質構造2階建 6戸



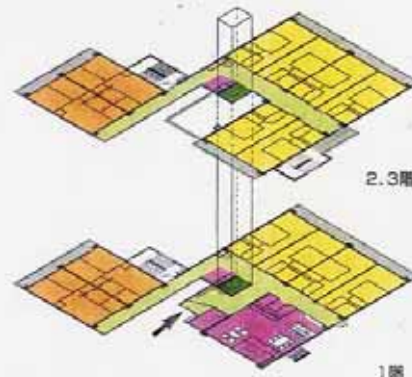
2層吹抜のコレクティブふれあい空間イメージ



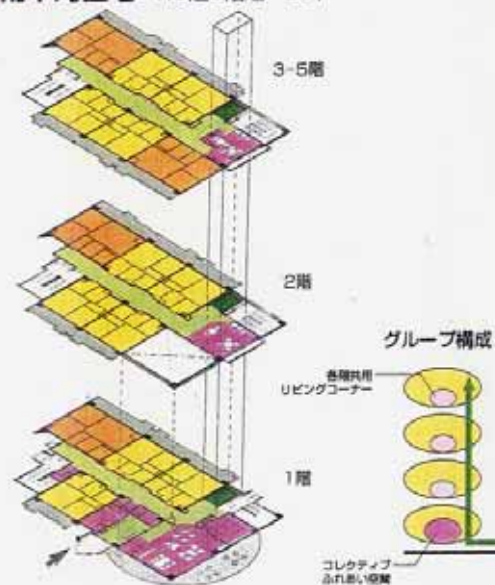
■東部新都心・臨浜住宅 RC造6階建 44戸



■岩屋北町住宅 RC造3階建 22戸



■南本町住宅 RC造5階建 27戸



神戸南本町住宅



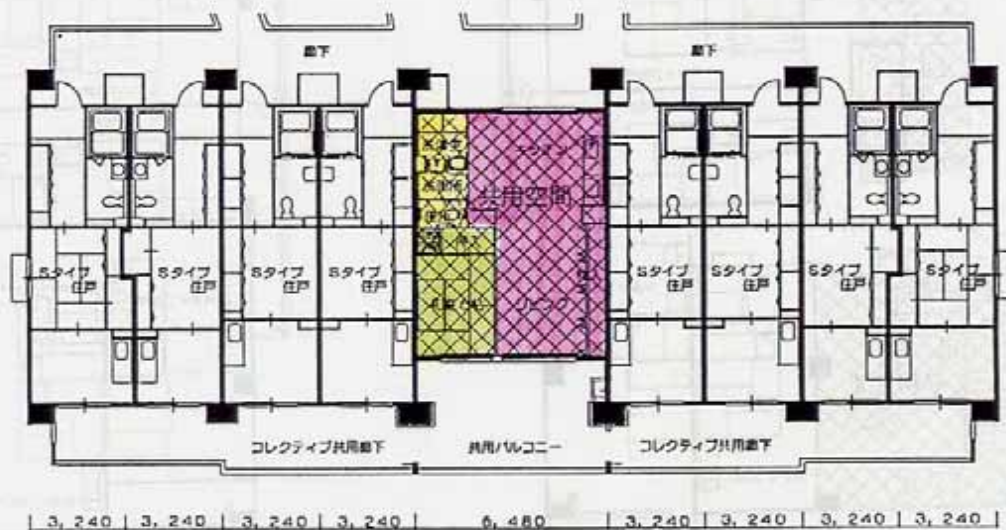
1 階平面図



5 階
4 階
3 階
2 階
1 階

体で一つのグル
-ブ 形成 (27 戸)

神戸大倉山住宅



- ・各層毎にグループ形成(8戸)
- ・各階コミュニティの重視





コレクティブハウジングの協同室／兵庫県復興公営・大倉山ふれあい住宅



コレクティブハウジングの協同室／兵庫県復興公営・大倉山ふれあい住宅

コレクティブ ハウジング

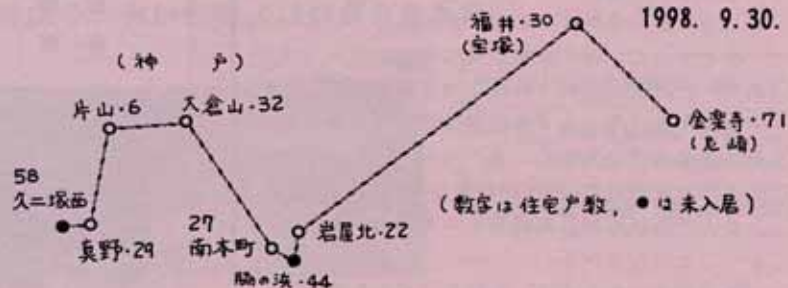
応援団の活動

ふれあい住宅 居住者交流会 と ふれあいネット レター

ふれあい住宅（コレクティブハウジング）の居住者交流会

ふれあいネットレター 創刊号

1998. 9. 30.



発行：コレクティブハウジング事業推進応援団

ふれあい住宅／住人のネットワークの第一歩にあたって

コレクティブハウジング事業推進応援団 石東 直子

震災後、全国で初めてできた公営コレクティブハウジング（ふれあい住宅）は、9地区で300戸余り事業化されました。そのうち現在は、7地区 約200世帯が入居されています。入居からの月日の長さや戸数の大小によって、さまざまな状況にありますが、多くはまだ、どうしたらうまく住みこなせるのかということで、頭を痛めていると聞いています。そこで、今日はコレクティブハウジングにお住まいになった方々が、自分たちの協同居住の状況や困っていることなど、うまくいっていることなどについて意見交流をして、これからの住みこなしのためのアイデアや智恵を交換できればと思います。

コレクティブハウジングに入居してからもうすぐ丸1年になる片山ふれあい住宅に、今日はおじゃまさせていただきました。建物の様子なども見せていただきました。

（7月10日の第一回・ふれあい住宅の居住者交流会のあいさつから）

Gathering Space(場所力)

御蔵プラザ5／被災地復興に最も必要な場所

MIKURA Plaza 5

- 神戸市長田区の御蔵通5・6丁目は、阪神大震災で全焼し、区画整理事業地区となった。住宅などを個々に再建するのではなく、敷地を一箇所に集め「**共同化**」による再建が、多くの区画整理地区で進められており、御蔵西地区では共同再建住宅「みくら5」が建設された。
- 1階に85m²の「プラザ5」がある。そこでは、ふれあい喫茶、まちづくり学習、お風呂・調理場・会場・宿泊、各種講習などが、「まち・コミュニケーション」を中心とした地域NPO組織によって繰り広げられている**コミュニティプラザ**である。
- 個別では敷地が狭小すぎる場合や共同化ビルによる余剰床（保留床）を処分することによる事業費補填などが、共同化のメリットであろう（「みくら5」は結局、保留床なしの権利床のみの共同化となったが）。
- 実はそれだけではなく、共同化は個々の権利者の合意形成が不可欠な**最も小さな「まちづくり」**でもある。

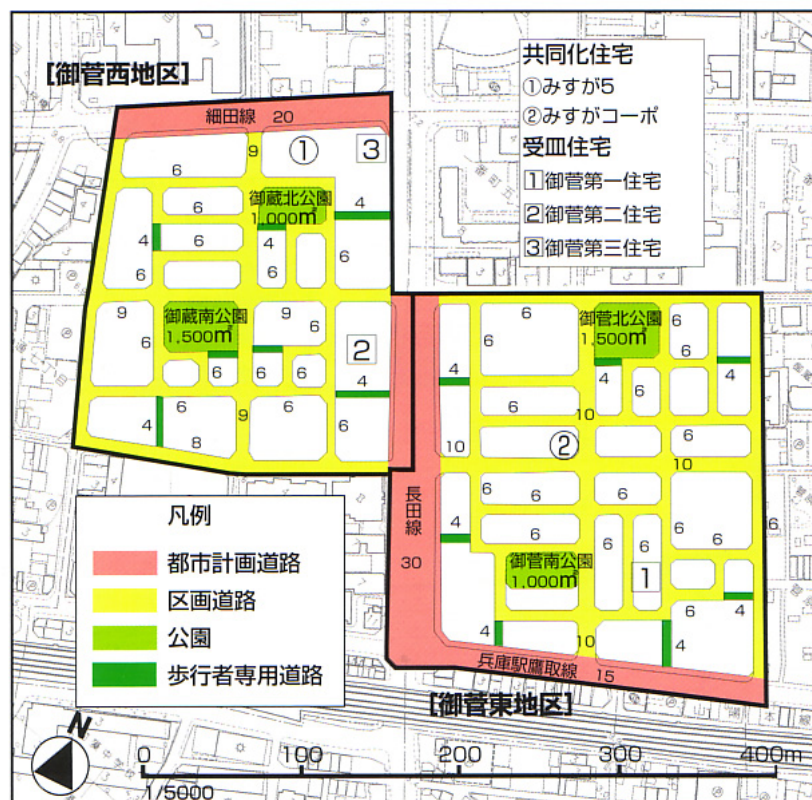
御蔵プラザ5／被災地復興に最も必要な場所 御蔵西地区震災復興土地区画整理事業みすが5位置図

1月17日／事業計画決定

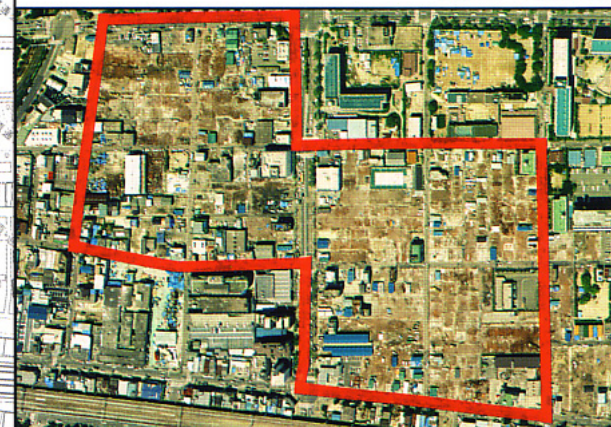
11月27日／地区計画決定

<平成10年>

1月8日／仮換地指定開始

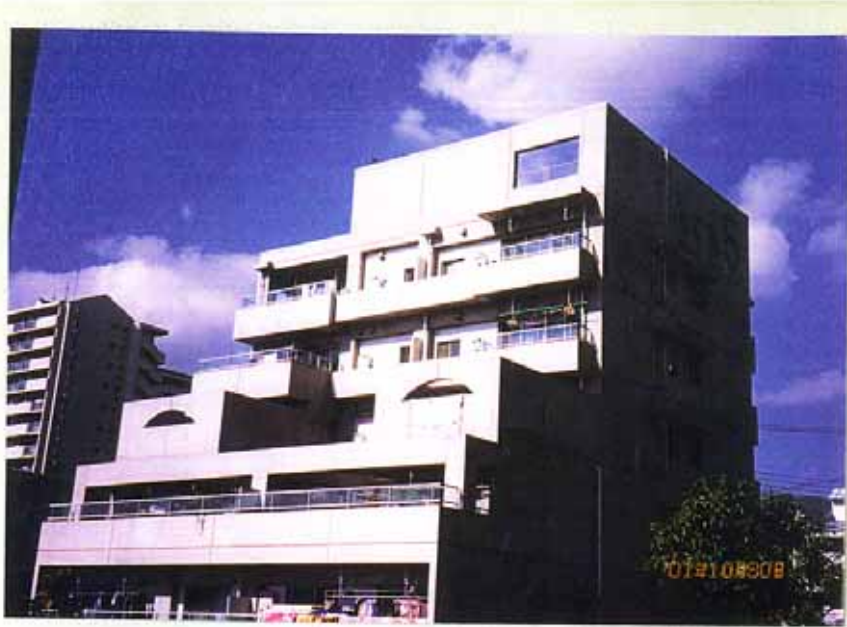


震災前 平成6年5月



震災後 平成7年5月

御蔵プラザ5／みくら5と御蔵北公園



御蔵プラザ5／被災 地復興に最も必要 な場所

プラザ5はこんな ところですよ

プラザ5はこんなところですよ

㊦ ふれあい喫茶

朝はみんなでゆったりりのんびりコーヒーでも。井戸端会議や将棋・囲碁でも。まちの交流スポットに・・・

㊦ ボランティア・まちづくり講習

御蔵のまちはみんながボランティア。全国からも大勢の方が勉強に来られます。震災の教訓を大切にしましょう。

㊦ お風呂・調理場・会場・宿泊

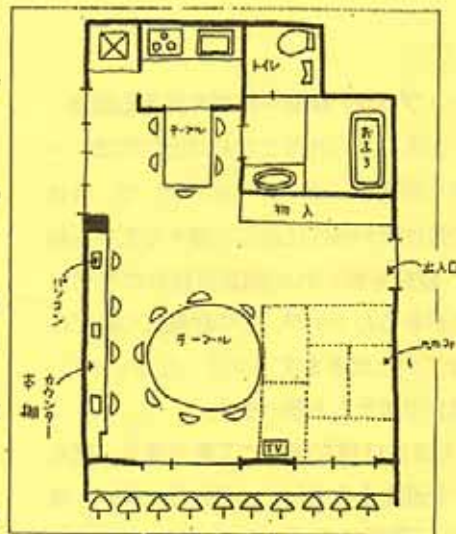
「一人でお風呂を沸かすのはもったいない」「身体が不自由で一人では入りづらい」方。サークルの集まりにも。

㊦ 困り事相談

まちづくりは末だ道なれば。換地・住宅再建や介護保険など福祉や役所のややこしい手続きの相談も気軽に。

㊦ パソコン講習

ワープロやインターネット、eメール・・・？あつかなびつくりの方も一緒にパソコンさわってみませんか。講習会も計画します。普段の日でもかわいいパソコンがいつでも自由にさわれます。お気軽においで下さい。



プラザ5開所式のご案内

■4月2日(日) 10:00～13:00

■会場—プラザ5

■屋台・バザー・もちつき・落語・大道芸など楽しい催しがいっぱい。気軽においで下さい

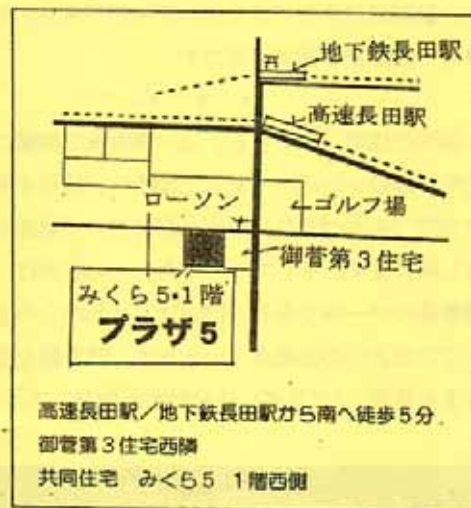
プラザ5運営委員会

神戸市長田区御蔵通5-9 2-2 みくら5-101号

TEL/078-576-7964 FAX/078-576-7961

バザー用品協力をお願い

プラザのふれあい喫茶の費用などを支援するため、バザーを4月2日の開所式で行います。ご家庭で眠っている品物を提供していただかせませんか。どんなものでも結構です。ご連絡下さい。一わがまちの会・竹内まで



高速長田駅／地下鉄長田駅から南へ徒歩5分。
御蔵第3住宅西隣
共同住宅 みくら5 1階西側



御蔵のプラザ5／御菅西震災復興区画整理地区の共同再建住宅みくら5協同スペース



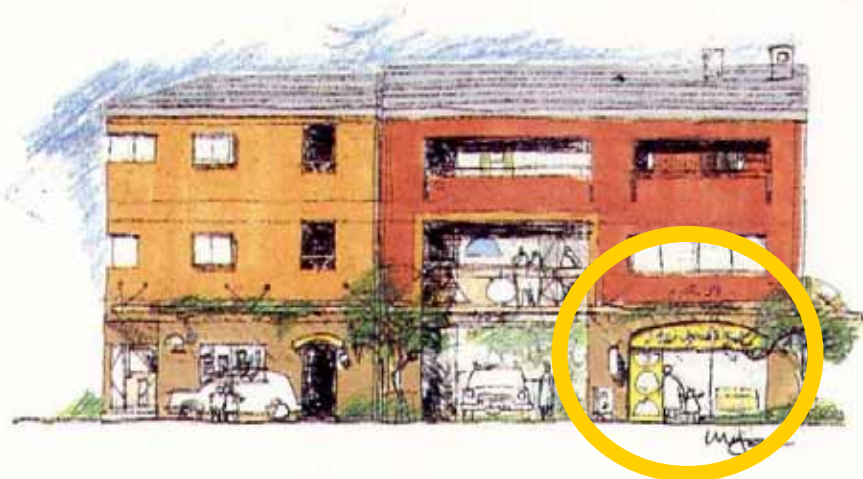
御蔵集会所／ 香住町から漁師の家を移築

MIKURA Community Center Old House from KASUMI



Inside of MIKURSA Community Center





きんもくせいのご案内

- フロインドリーブのパンの販売
- 茶店きんもくせい
(コーヒー、紅茶のみ)
- 震災復興関連物品展示販売
(出版物、Tシャツなど)
- 地区住民作成物の委託展示販売
(菓子、手芸など)
- 貸会議室、貸展示室、各種教室
の運営



開店時間／10:00～17:00 (日曜、祝日は休みです)

まちづくり 有限会社 きんもくせい/KINMOKUSEI

Community/Communication/Co-operative Space

神戸市灘区楠丘町2丁目5番20号 ☎657

KOBE City Nada-ku Kusugaoka-cho 2 JAPAN 657

電話番号078-856-3358 複写電送078-856-3358
telephone facsimile





茶店きんもくせい／震災共同再建住宅協同スペース (市民まちづくり支援ネットワーク)

Gathering Space(場所力)

芦屋だんだん畑／復興団地に住む被災者の場所

ASHIYA Rice Terrace

- 阪神大震災では、仮設住宅などの仮のすまいから、公営住宅など恒久住宅への移動が、1998年4度目の春にピークを迎え、本当のすまいへ移るとともに、もう一度**新たな近隣関係を再生創造していく**ことを被災者は余儀なくされた。
- 初めての鉄筋コンクリート造共同住宅への入居に備えることに併せて、新たなコミュニティ再生のために、多くのところで事前の見学会や交流会など**入居予定者事前交流事業**が進められた。
- そのきっかけは、芦屋市の南端の人工島に作られた南芦屋浜復興公営住宅（県営414戸、市営400戸）における**コミュニティ・アート計画**の1年以上にわたる取り組みであった。7回に及ぶ「暮らしのワークショップ」と、多くの支援アーティストも参加した「アートワーク」が進められ、団地の住棟間の緑地に「**だんだん畑**」が完成した。震災後に設置された新たなタイプのギャザリング・スペースの代表であり、多くの被災入居者の協同の暮らしを再生する場であった。

芦屋だんだん畑／復興団地に住むことになった 被災者の場所

ASHIYA Rice Terrace



1. ナチュラルコモン

1. ナチュラルコモン

この空間は、アートワークのだんだん畑によって、楽農活動を通して、新しいネットワークを育む場を提供しています。四季折々に表情の異なる、多くの種類の植栽がなされています。



コミュニティ&アート計画

コミュニティ

暮らしのワークショップ

入居予定者
・
希望者

環境形成に
かかわる専門家

ボランティア
などの一般市民

- 新しい近隣同士の顔を覚える
 - 共用空間の使い方と提案
 - 自治会や園芸活動グループなど、
入居後の環境維持・形成
- について話し合う

入居前の
コミュニティづくり

アート計画

アーティストによる
環境一体型アートワーク

- 12棟の住棟ピロティの
建築と一体となった
アートワーク(7作品)

市民、ボランティアによる
アートワーク

- 車止め (193本)
- お尻合いベンチ(24個)

+

+

- 約400mのプロムナード全体のアートワーク
- 住棟間の緑地全体のランドスケープ彫刻
(芦屋のだんだん畑)
- (芦屋のだんだん畑)のための植栽活動と
自主的維持管理のためのワークショップ「楽農講座」
および「"出前" 楽農講座」

アートを介した
まちと人の関係の創造

■コミュニティ/暮らしのワークショップ

コミュニティ/暮らしのワークショップの方針

- 入居予定者、ボランティアなどの一般市民、ワーキンググループなどから参加者を募り、共同空間をどう利用するか、そのしつらえをどう用意しておくか、草花育成クラブなどの、入居後の環境維持・形成における参加をどう考えるか、などについて、ワークショップやトレーニングを行います。
- このような場を、入居までの間、定期的に持つことにより、新しい近隣どうしの顔を見えることができます。
- 互助やコミュニティのしくみの育成、共有部の清掃や管理、緊急時の対応等の共同生活のソフトについても、入居後の対応へスムーズにつなぐことができます。



第1回ワークショップ

1997年5月25日

「共に暮らす人の輪を育む」

住まい博士による幻燈会から始まり、スヌーピーの絵本を読み聞いたり、ユニークな共同住宅の事例から、共に暮らす楽しさについていろいろなお話を聞きました。

その後10人ほどのグループに分かれ、新しい住まいに対する夢や期待、不安などを話し合いました。



「こんな暮らしにしたいからいいね!」をテーマに、グループで夢と期待を作りました。

第2回ワークショップ

1997年6月29日

「団地の全体計画を知ろう」

今般の大きな目的のひとつは「南門屋敷」の計画の全体像を知ることでした。そのため住居分譲と設計者より全体スケジュール、全体計画、住棟計画、住戸計画の説明と、前出された質問に対する回答の説明を受けました。

後半は、新しい住まいに足並とも揃ってほしい現在の「暮らしの宝物」を一つあげるとしたら何でしょうか? グループで4人組になって入居予定や入居希望の方にインタビューして「暮らしの宝物」カードに記録しました。



「暮らしの宝物」のカード

第3回ワークショップ

1997年8月3日

「いろいろな人と交流しよう」

建設地の見学と南門屋敷団地のプロデューサーに楽しい仕掛けをして下さるアーティストの方にお話しをしていただきました。「アート」というものは特別なものではなく、毎日食べるご飯と同じ。どこにもある材料で、おいしく食べるために飽きのこないものを作り楽しんでもらいたい。時には隣さんで話をして可愛がってもらいたい」



建設地見学で記念撮影

第4回ワークショップ

1997年9月7日

「庭や共用空間の使い方を考えよう-1」
居住者同士の関係を育む仕掛けとしての共用空間をどう使いこなしていくか、また管理面を考えてどんな問題が起るであろうかという点を話し合いました。そしてある日のコミュニティテラスでの出来事として寸劇で発表しました。

どのグループも活発な演技で、現実的に日常起りそうな問題、そしてそれをどのように解決していったらよいかということが理解できました。



寸劇の様子



みんな思い思いの色の土団子を作りました

第5回ワークショップ

1997年10月12日

「庭や共用空間の使い方を考えよう-2」

みんなで土団子を作りました。テーブルの上にブルーシートを敷き実際の土や野菜の種、パケツの水、アルミホイル等を並べ植物の種を張りつけた「土団子作り」を体験しました。

オデュール・コモンに計画された「だんだん顔」と外観空間を彩る樹木の計画について話し合いました。

第6回ワークショップ

1997年11月9日

「居住者の活動グループを育もう」

最初に、建設現場の進行状況とみなさんが入居する部屋の様子をスライドを使って説明がありました。そして、今後のスケジュール等について大まかな説明がありました。

次に、みなさんが入居するまでに、自主的な活動グループをつくって、今後の組織づくりにつなげていってはどうかと実行委員会より提案をし、いくつかのグループに分かれ、活動内容やスケジュールについて検討しました。



実行委員会を企画しました

第7回ワークショップ

1999年3月15日 「入居前情報を知る、自治会のたちあげを考えよう」

入居を直前に控え、まず、緑道や引越し等の最新スケジュールについて説明がありました。次に各住棟ごとに分かれたグループで、自己紹介カードを記入し、記念撮影をしました。

後半は、「だんだん顔」での園芸活動や季節まつり（恒例）についての説明のあと、入居後の課題として、自治会のたちあげや共用部分の維持や入居者顔合わせ会についてのアンケートが行われました。



入居前の写真と笑顔

屋外環境



1. ナチュラルコモン

1. ナチュラルコモン

この空間は、アートワークの込んだ人地によって、季節活動を通して、新しいネットワークを育む場を提供しています。四季折々に表情の異なる、多くの種類の樹木が植えられています。

2. 自転車歩行者専用道路（市道）

街へのアクセスの主要幹線です。閑静な市営住宅の道路と一体的な歩道帯は、リニアな（長い直線的）公園でもあり、市営住宅と閑静住宅の人々の出会う、交流の領域となります。山から海への輪環をより印象的なものとするため、アメリカ風の並木をつくっています。

3. 遊び場

コミュニティプラザ（集会所）は、地区・市域それぞれの道路の中心であるとともに、地域との交流も図れる配置としています。この遊び場は、集会所と往々に開かれた緑地のプライベート空間です。土の広場に、遊具やベンチなどを配置し、集会所との一体的な利用もできるように考えています。コモン道路と、一体的な植栽設計を提供しています。

4. 街のアクセスコート

造成市街地から新幹線（人通り）を渡って、最初はこの街に入る玄関が、この広場です。駐車をセットバックし、高木を季節的に配した緑豊かな広場です。街へのゲート性を意識できるように、自転車歩行者専用道路沿いの並木と同じアメリカ風の植栽を行っています。



4. 街のアクセスコート

市営

県営



5. コモン街路

居住性や駐輪施設に際し、様々な広場をつなぐヒューマンスケールで、緑豊かな街路空間です。さわやかな緑陰を提供する、シマトネリコや置に花の咲く、サルスベリ、アメリカデゴを植栽しています。

6. グリーンプロムナード

幹線道路の歩道に隣接し、高木並木による広大な、街の緑の軸としてのプロムナードを形成します。この空間は、高層住棟のビロディ部分とつながりをもたせ、さらに住棟の豊かな表情やアートワークも顔を出し、楽しさのある空間にしています。並木は幹線道路と同じケヤキによって2列の並木となり、あどりのトンネルとなることを意識しています。



2. 自転車歩行者専用道路（市道）



3. 遊び場



5. コモン街路



6. グリーンプロムナード

芦屋だんだん畑／復興団地に住むことになった 被災者の場所
ASHIYA Rice Terrace

南芦屋浜復興公営住宅配置図と「だんだん畑」の場所



Minami-Ashiyahama Public housing for victims

南芦屋浜 コミュニティ アート Minami- Ashiyahama Community Art

「注文の多い楽農店」 (芦屋のだんだん畑) について

■「注文の多い楽農店」(芦屋のだんだん畑) について

●「注文の多い楽農店」(芦屋のだんだん畑)は、今回コミュニティ&アート計画に参加されている田雨津子さんの作品です。これは、南芦屋浜団地の緑地部分(ナチュラルコモン)につくられる作品であり、入居者の方々の参加によって成立するものです。

●「注文の多い楽農店」(芦屋のだんだん畑)は、入居された皆さんの誰もが利用できる場所です。皆さんで植物や野菜を育てる場所として利用してもらいたいと思います。

●ただし、そんなに大きな面積があるわけではありませので、皆さんが好き勝手に使用するには少し無理があります。また、だんだん畑を利用するためのルールなどもまだ全然決まってはいません。そこで、だんだん畑の管理や利用についてのルールづくりなどを、これから皆さんと話し合っていきたいと考えています。



■「楽農」について

●「楽農」という言葉は聞き慣れないかもしれませんが、文字どおり「農業」を「楽しもう」という意味です。収穫の量や質を気にしないで、のんびりと花や野菜を育てることを楽しんでください。(裏に田雨津さんによる「楽農」の解説を記しています)



(芦屋のだんだん畑) イメージ図



10月12日に行われた
(だんだん畑)
石積みテスト風景

南芦屋浜
コミュニティ
アート

芦屋の
だんだん畑
ASHIYA
Rice Terrace







「だんだん畑」のはたけ開き（1998年5月17日）





Network-Media(連帯と共有)

支援ネットワーク／復興市民まちづくりを支える Supporter's Network

- 「**阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク**」は、震災後10日目にできたネットワークで、被災地の復興に立ち向かう市民まちづくりを支援していこうという「ゆるやかなつながり」である。
- 支援ネットは復興市民まちづくりを支えるために、

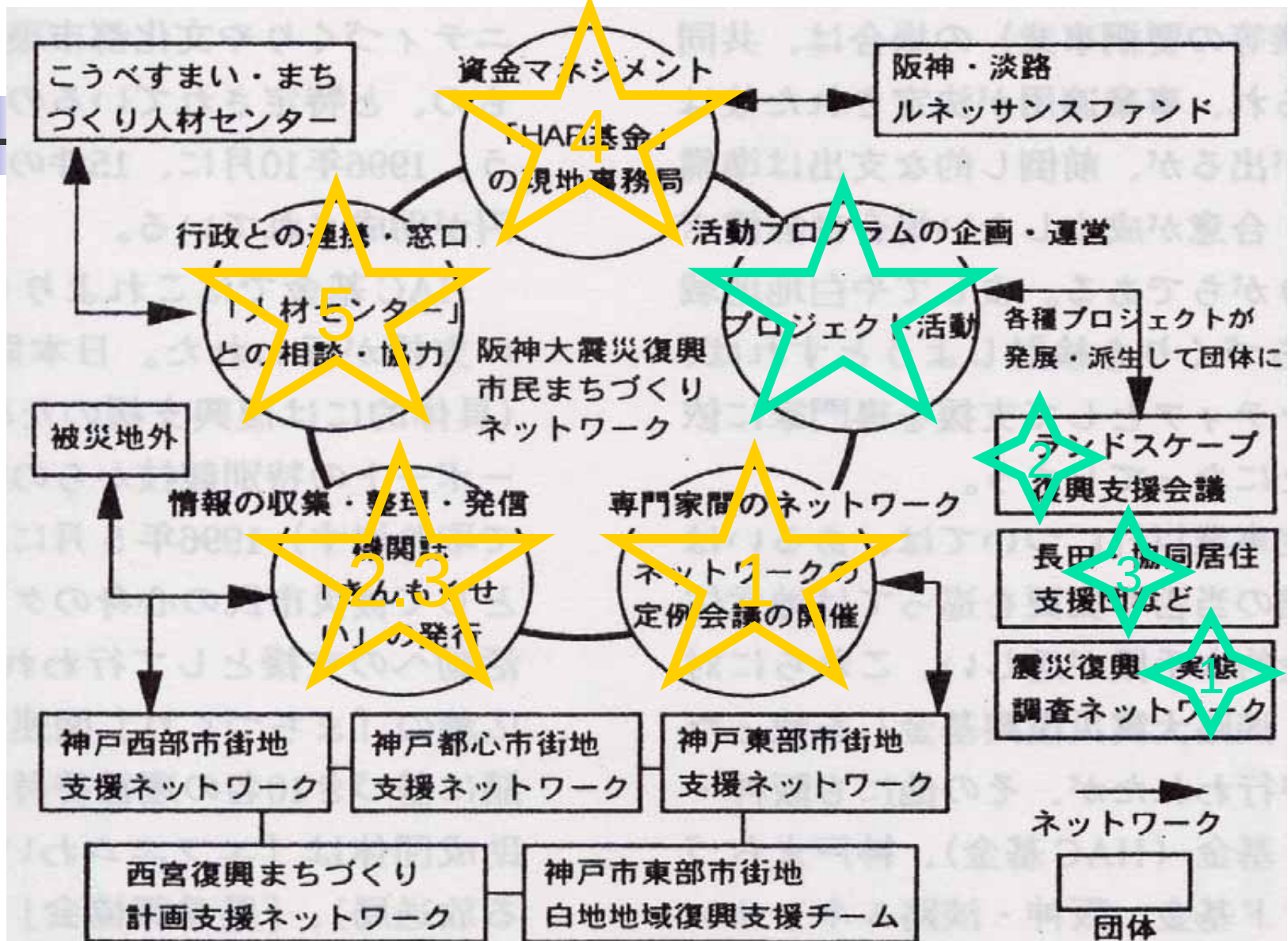
5つの定常活動

- 1) ネットワーク連絡会議の開催
- 2) ネットワークニュース「きんもくせい」の発行
- 3) 「復興市民まちづくり」(まち協ニュースなど合本)の編集・刊行
- 4) 阪神・淡路ルネッサンスファンド(HAR基金)の現地事務局
- 5) すまい・まちづくり人材センターの相談協力。

3つのプロジェクト活動

- 1) 被害実態緊急調査
- 2) 市街地緑花再生プロジェクト
- 3) コレクティブハウジング事業推進応援団。

支援ネットワーク／復興市民まちづくりを支える 阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワークの活動



支援ネットワーク／復興市民まちづくりを支える
被害実態緊急調査のコープラン会議 (950129)



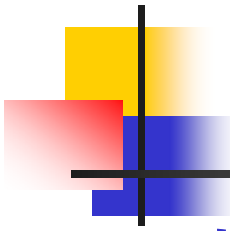
22 六甲口地区(神戸市) この地区では被災の有無が比較的明瞭に区分されていることが見てとれる。断層と地盤強度による影響があらわれた地区である。

阪神大震災復興

市民まちづくり支援ネットワーク

～震災復興の市民によるまちづくりの支援～





震災復興におけるまちづくりネットワーク／中間組織

■ 中間組織の重要性と支援・育成

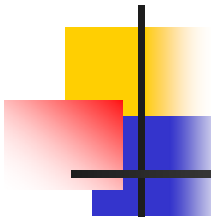
個人・集団、個々に支援する人・ボランティア組織、専門家・地域の世話役など多方面・多分野の活動が円滑・効果的に進むためには、それらを束ね、連絡し、調整する中間組織・ネットワーク形態が重要な役割をもつ。

行政は中間組織には、自律性を尊重した間接的支援が重要である。

■ 中間組織としてのネットワーク

阪神大震災において、震災復興に多くの中間組織・ネットワークが生まれた。多くの活動が生まれれば、多くの中間組織・ネットワークが必要とされるための、結果である。

事例・総合支援まちづくりネットワーク
・専門支援まちづくりネットワーク



総合支援まちづくりネットワーク

◆阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク

被災地のまちづくりに、震災前から何らかの関わりのあった都市計画家、建築家、大学研究者ら約50人が、自らの手で阪神・神戸のまちの復興に役立ちたいという思いからできたネットワークである。神戸東部市街地・神戸西部市街地・神戸都心市街地に別れて、それぞれ世話人を置き運営・統括にあたっている。

◆神戸復興塾

被災者の救援や被災地のまちづくりにボランティアとして関わるようになった大学教員・研究者・医師・コンサルタント・NPO運動家・ジャーナリストなどからなる自発的な団体で、本業を離れて、しかもそれぞれの専門性を活かしながら復興のありかたや具体的な支援策について討論を重ね、「現場の知」の蓄積に努めている。

◆阪神・淡路まちづくり支援機構

大震災被災住民の都市計画決定区域以外の地域振興、まちづくりについて支援することを目的に、1996年9月4日設立された。構成メンバーは専門家個人のほか、弁護士会を中核に、税理士会、土地家屋調査士会、不動産鑑定協会、司法書士会、建築士会、建築家協会、建築士事務所協会などが参画。

◆神戸まちづくり協議会連絡会

神戸の「まちづくり協議会」の連絡会をつくろうと震災後数多く結成されたものも含めて17地域の協議会が発起人となり、1996年7月24日に33地域の連絡会が発足した。まちづくり協議会のみによる自主的な団体としてスタートし、まちづくりに役立つ情報の交換を活動の大きな柱としている。

◆阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク



950130 被災調査打合せ／西宮市民会館



950206 神戸市住宅打合せ／インテス



950204 住市総調査打合せ／OUR大阪



950304 神戸東部打合せ／長嶋事務所



専門支援まちづくりネットワーク

◆ランドスケープ復興支援会議 (阪神グリーンネット)

1996年2月6日、緑のまちづくりを専門とする人達が集まって、復興後の緑豊かで安心・快適なまちをめざし、花や緑を被災地に埋め込もうという集まりを開始した。具体的には、被災地へ花や野菜の苗を配布、緑に関する専門家の派遣、生垣づくりの実践（移動式生垣も）など。

◆コレクティブハウジング事業推進 応援団

コレクティブハウジング（協同居住型集合住宅）の事業化を推進するための普及活動を進めている応援団。1995年9月21日発足・第1回ミーティングを開催。都市計画・建築関係者だけでなく、医療関係者、仮設住宅支援NGO、大学関係者・学生、マスコミ関係者、行政関係者など延べ70人以上が参加。

◆関西建築家ボランティア

震災後、建築家として何かをやらねばと大阪・神戸・京都・奈良で事務所を主宰する、いわゆるアトリエ派の建築家たちによって1995年1月25日に結成され、略称「関ボラ」。東灘区魚崎地区のまちづくり活動に参加。まちづくりシンポジウム開催、被災状況調査・復興状況調査、多くの復興提案などを行っている。

コレクティブハウジング事業推進応援団 (真野ふれあい住宅)



Network-Media(連帯と共有)

まちづくりニュース／情報共有のための自前メディア Machizukuri News

- 住民・商店主・地域企業など多くの地域構成員の総合的統括的意向集約が、市民参加のまちづくりであり、その基本は**まちづくり情報の共有化**にある。
- まちづくり協議会の活動や行政との交渉経緯などを広報し記録する「まちづくりニュース」の発行は、そのために必要不可欠な活動であり、最も重要な情報ツールである。通常の状態でもそうであるから、災害緊急対応時の「復興まちづくりニュース」の重要性はいうまでもなからう。
- 市民まちづくりを支援する側でも、事情はほぼ同じで、**自前のメディア・ニュースなどに対する重要性**はもっと大きい。
- まちづくり関係以上に多くのボランティア・情報・福祉などに関する素晴らしいネットワークも活躍している。**市民活動の多重ネットワーク社会**が、21世紀の主要な社会像のひとつと思うが、震災という不幸によって突然、被災地ではそれらを全国のだれよりも早く手に入れてしまったのかもしれない。

まちづくりニュース ／情報共有のための 自前メディア

支援ニュース
きんもくせい
創刊号 (950210)
KINMOKUSE



きんもくせい

創刊号

発行: 阪神大震災復興
市民まちづくり支援
ネットワーク事務局

復興市民まちづくりニュース創刊！

1月17日（火）未明に神戸・阪神間を襲った戦後最大の大地震は、多くの人々の命を奪い、わたしたちの生活を支えるまちに想像を絶するほどの大きな打撃を与えました。地震から8週間あまりを過ぎた今なお、生活の場を奪われた20数万人の人達が避難所やテントでの悲惨な被災生活を強いられており、一日も早いまちの復興を切実に願っています。

この間、行政を中心に阪神間のまちの復興に向けて本格的な取り組みがはじまるなかで、大学や民間の都市計画機関でも復興まちづくりに向けて実態調査、地区のまちづくり計画などさまざまな活動がおこなわれています。

このニュースは、阪神間の復興まちづくりにむけて、被災した市民の立場にたって奮闘努力している人達が、どこで、どのような調査や計画づくりに関わり、どのような問題に直面し、どのような活路をみいだしているのかといった情報を共有できる場となることをめざしています。

このニュースを通じて、復興まちづくりに関するできるだけ多くの情報を集約・整理し、発信することにより、阪神間の復興に向けたまちづくりの前進に少しでも役立つことができればと思っています。

復興まちづくりに関する情報提供、投稿のお願い

このニュースは、復興まちづくりに最前線で関わっておられる皆さんから寄せられる情報をもとに逐次発行していくと考えています。

つきましては、皆さん大変ご多忙のこととは思いますが、以下のような情報、原稿をどんどん編集局宛にFAXでお寄せいただくようお願い致します。また、まちづくりの現場や活動の拠点に、編集局から取材にお伺いすることも考えておりますので、その節にはご協力のほどお願い致します。

【情報提供、投稿の募集】

- ・まちづくり計画の現状や問題点、他地区へのアドバイス
- ・まちづくりを進める中で知った、切実な市民の声、意見
- ・調査や計画づくりを通じて新たにわかった事実や課題
- ・阪神間の復興まちづくりに向けての「私の意見・提言」
- ・今回の大震災を通じて感じたこと（何でも自由に）
- ・これからの調査や活動の企画
- ・復興まちづくりに参考になる文献や図書の紹介
- ・調査や計画づくりへのボランティア募集の呼びかけ

その他、どんな情報、原稿でも結構ですので多数お寄せ下さい。



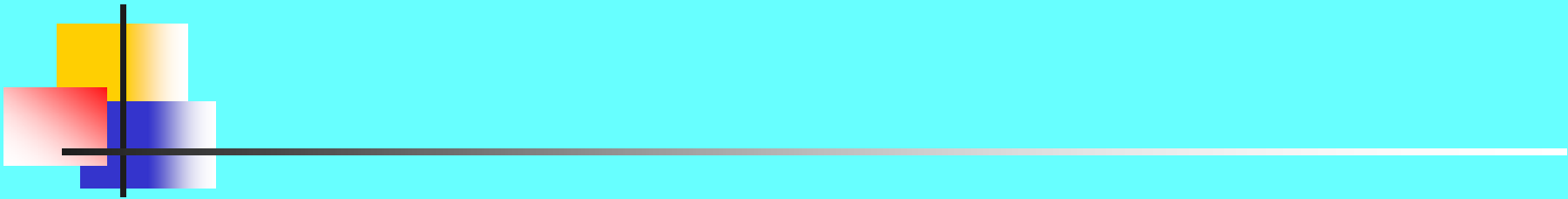
事務局北側の通称「きんもくせい」通り

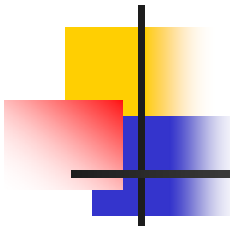


火事で焼失した廣取商店街周辺

まちづくりニュース／情報共有のための自前メディア 各まちづくりニュースの合本「復興市民まちづくり」

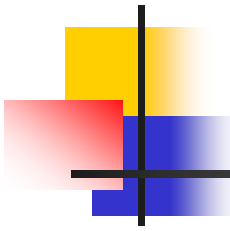






小規模分散自律生活圏

- 1) 震災ユートピア
 - ・・・震災から学んだこと
- 2) コンパクトタウン
 - ・・・小規模分散自律生活圏
- 3) 自律と連帯
 - ・・・企業活動世界から市民活動社会へ



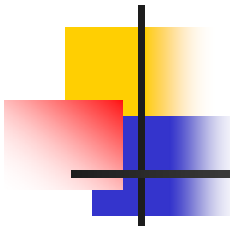
1)震災ユートピア／震災から学んだこと

- 巨大なものはもろい
- やってないことはできない
- 自分でできることを自分でする



<小規模分散自律生活圏の多重ネットワーク社会>

自律生活圏＝まち住区、コンパクトタウン



2) コンパクトタウン

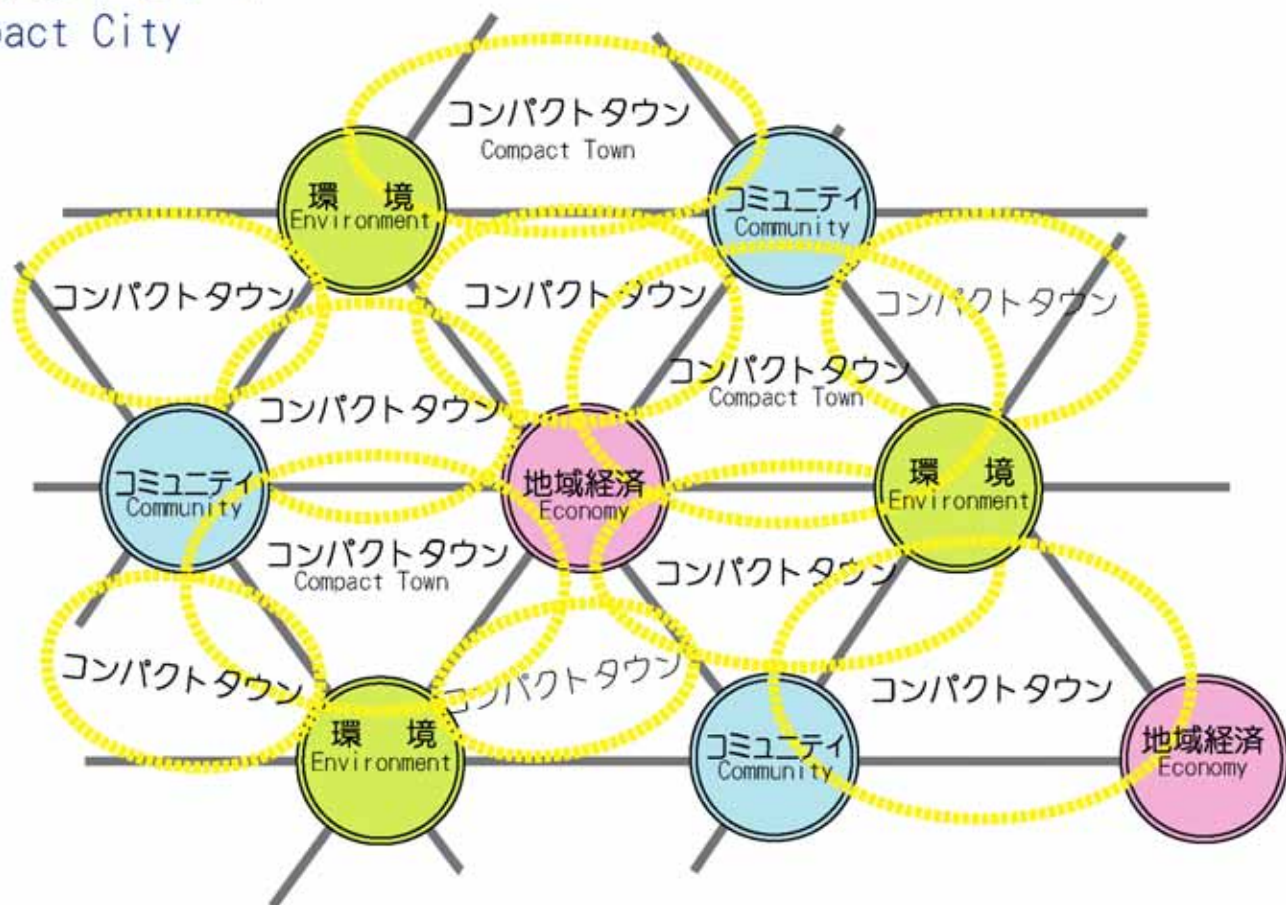
／小規模分散自律生活圏

- 近隣住区を超え、環境的にも地域経済としても自律循環をめざし、自己決定できるコミュニティとして、「**自律生活圏（まち住区、コンパクトタウン）**」の**確立**こそが、住民主体のまちづくりのゴールであり、災害に強い（うたれ強い）市街地の基本である。

自律連帯都市（コンパクトシティ）

環境と地域経済とコミュニティでつながっていく自律生活圏（コンパクトタウン）の多重ネットワーク社会である自律連帯都市（コンパクトシティ）をめざす

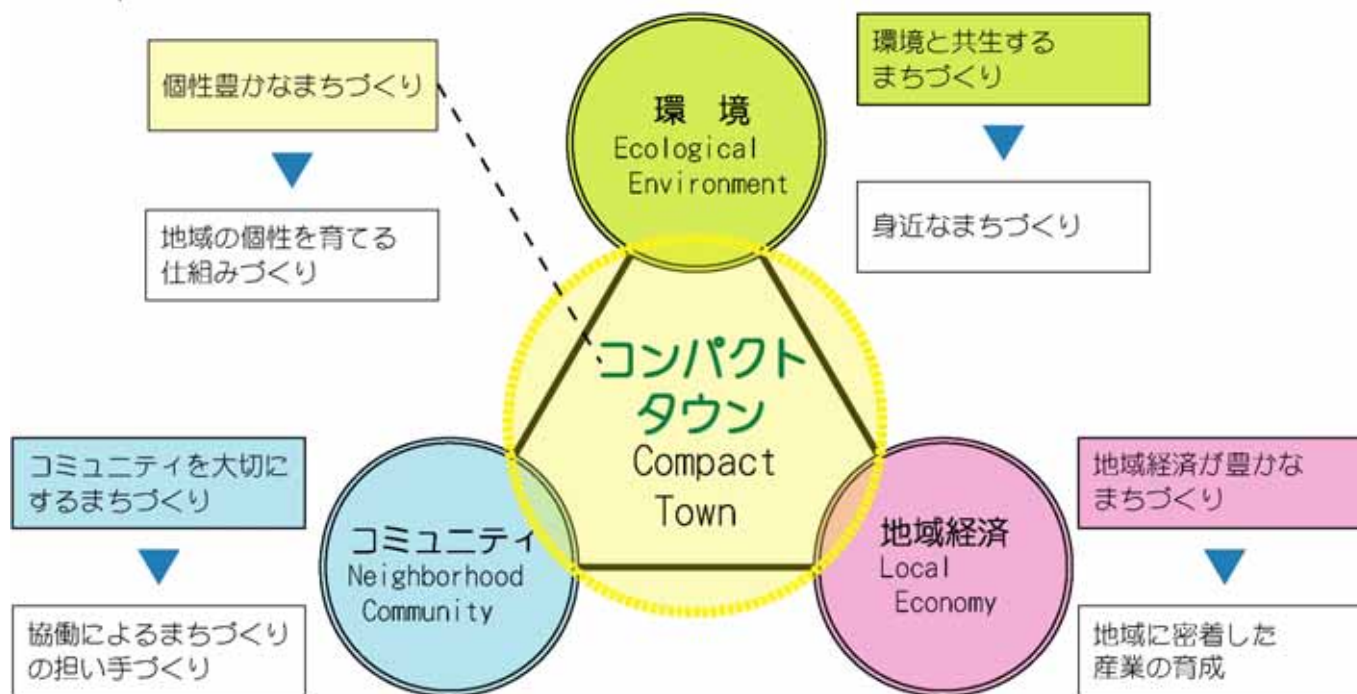
■ コンパクトシティ
Compact City



自律生活圏（コンパクトタウン）

地域の環境（エコロジー）と経済（エコノミー）とコミュニティが
自律したまちを支える。

■コンパクトタウン Compact Town

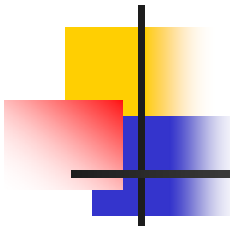


3) 自律と連帯／企業活動世界から市民活動社会へ

…多重ネットワーク社会

- 20世紀の国際・企業中心の企業活動世界から、
- 21世紀の民際・市民中心の市民活動社会へ
- 環境・経済・地域の小規模、分散化
- 連鎖・多重ネットワーク化

<小規模分散自律生活圏の多重ネットワーク社会>



まちづくりにおけるCBOとNPO

- CBO : Community Based Organization

地縁組織

コミュニティにおける

地域型（CBO）と参加型（NPO）のまちづくりの協調

- 地縁組織CBOであり、非営利組織NPOである
まちづくり協議会の役割 <地域力>の蓄積
- 参加型まちづくり組織としての
まちづくりNPOの役割 <市民力>の向上

まちづくり協議会

● 浜山地区まちづくり協議会

● 野田北部まちづくり協議会

3. 浜山地区まちづくり協議会の活動状況

【協議会の結成】

浜山地区まちづくり協議会は、「子供からお年寄りのまでが安心して快適に暮らせる住みよいまちづくり」を推進することを目的として、地元地域で活動されている住民自治組織の代表者（36団体・84名）によって平成元年2月7日に結成されました。

（協議会の活動範囲：約60ha・3,500世帯・9,000人）

【まちづくり提案の提出】

協議会では、神戸市のまちづくり助成を受け、約3年間にわたり、アンケート調査やまちづくり説明会・相談会の開催、まちづくり協議会ニュースの発行などをくり返し行うとともに、浜山地区がかかえるまちづくりの課題や将来像を検討されました。

そして、平成3年7月24日に住民の意見や要望を基約して、浜山地区まちづくり構想を「神戸市まちづくり条例」にもとづく「まちづくり提案」として神戸市に提出されました。

【協議会の活動】

協議会では、まちづくりを早期に実現していくために、「ふれあい夏まつり」の実施、都市計画決定の地元説明会での可決進行、地すき道海軍線の軌道重要歴史の提供、まちかど広場の管理、まちづくり広報活動、地元意見の調整・集約作業など、まちづくり活動に幅広く、積極的に関与してまいります。

（まちづくり協議会活動）



これらのまちづくり活動の経緯に対して、平成5年6月に兵庫県議会第3回「きょうか町づくり賞」を受賞しました。

（まちづくり協議会ニュース）



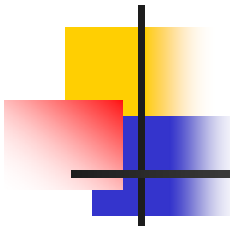
（まちづくり協議会活動の案内ポスター）



（まちかど広場「あつみあいの広場」）



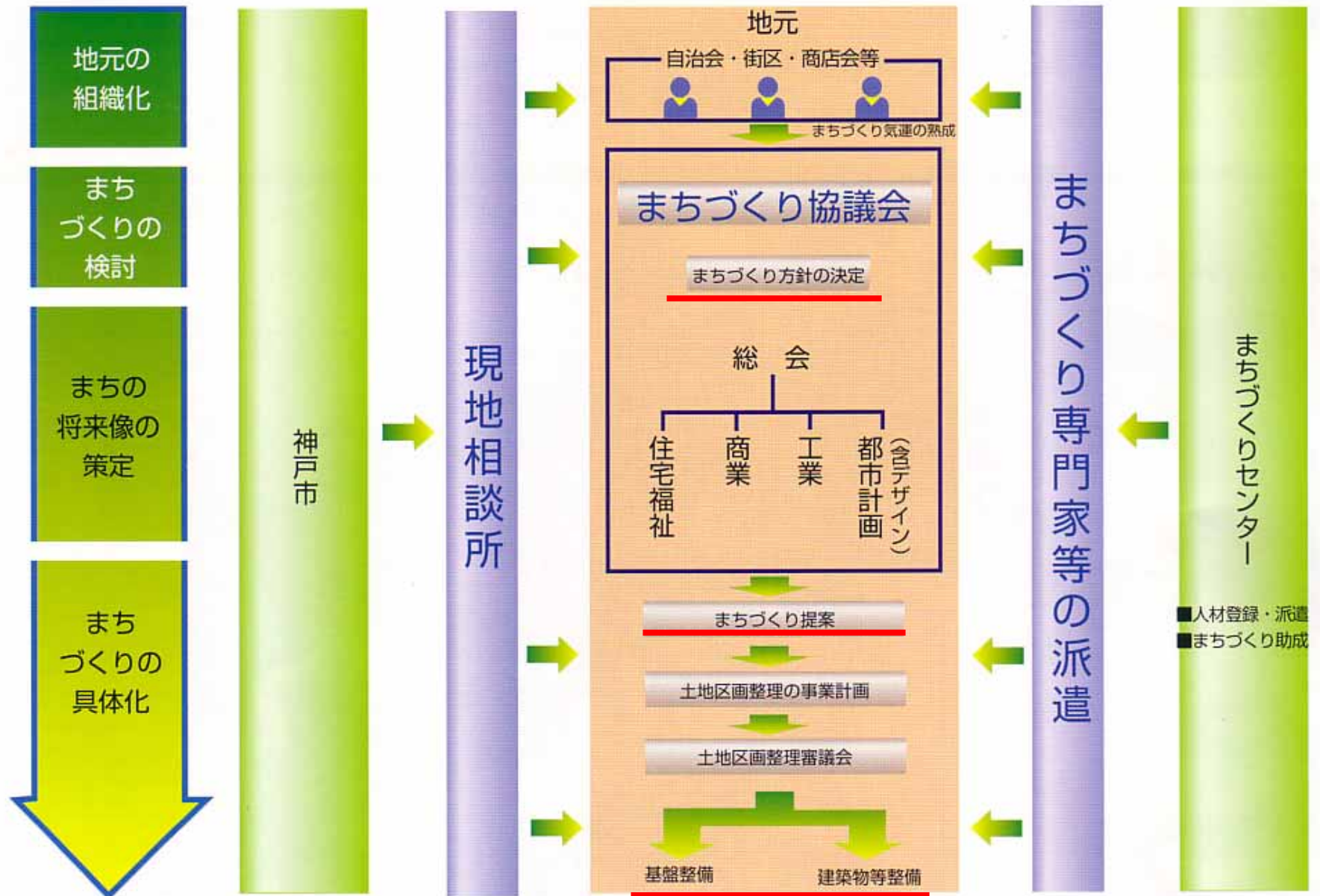
※「まちづくり協議会」とは、住民や地域の住民がまちづくりを推進することを目的として組織した団体であり、まちづくり条例にもとづき、市議会による協議の決定を経て、まちづくり提案を市議会に提出することができ、市議会は提案に基づいて地区の発展を遂げていくこととなります。



まちづくり協議会の役割

神戸市のいわゆるまちづくり条例(1981年12月制定)は、神戸市が住民組織としてのまちづくり協議会を認定すると、その地区におけるまちづくり構想の市長への提案権をもち、合意すればまちづくり協定が結ばれる。

神戸市のまちづくり協議会システム



神戸市重点復興地域と都市構造計画 (基図は被災地図)

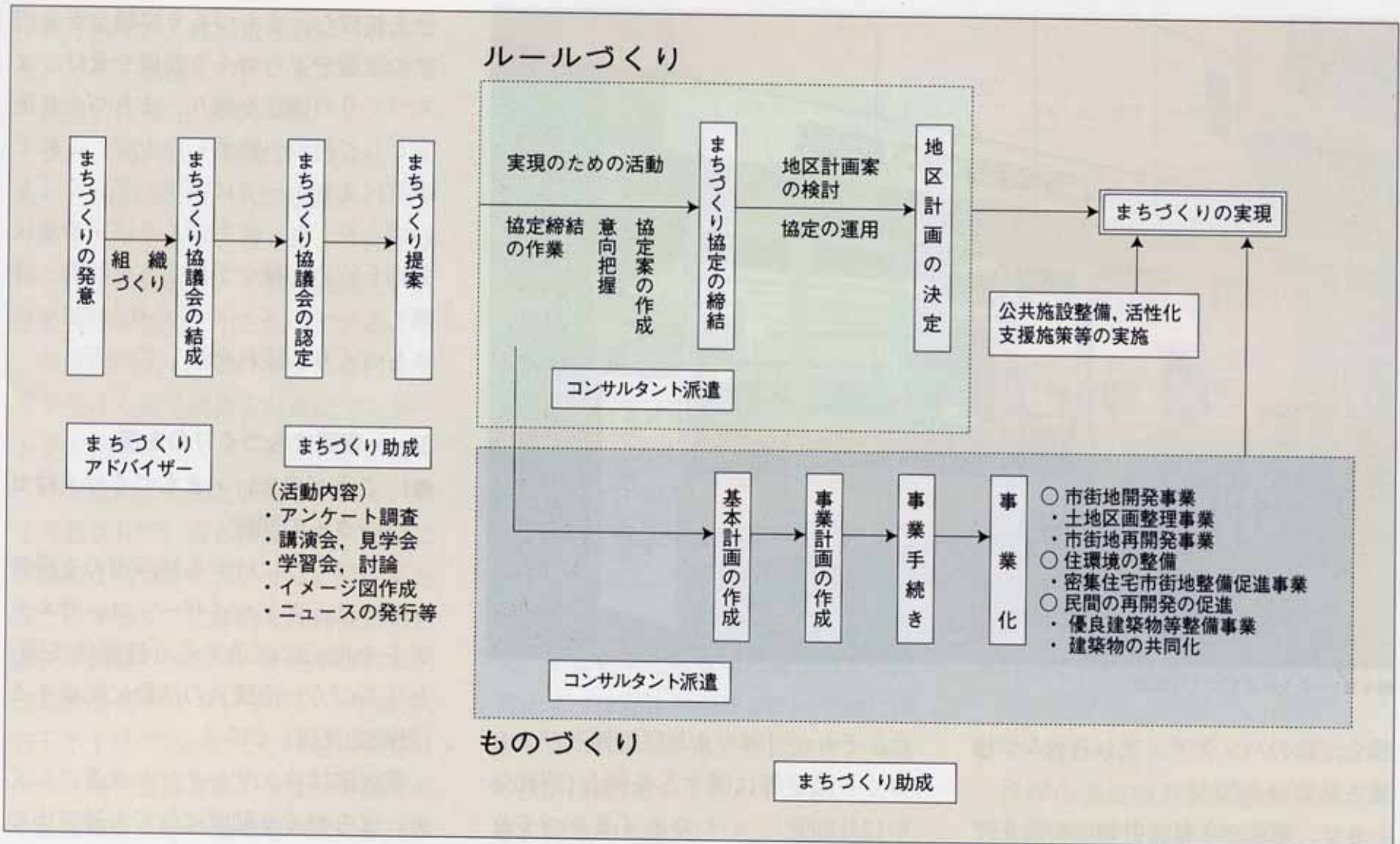


まちづくり協議会の位置

神戸市灘区の重点復興地域とまちづくり協議会



神戸市のまちづくり協議会システム



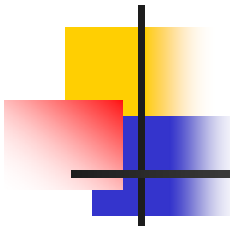
■図2—住民主体のまちづくりの進め方

まちづくり協議会の位置（震災前）

MACHIZUKURI Organization (MACHI-KYO)

Before Earthquake / Official 12 organizations in KOBE





震災後のまちづくり協議会

そうした背景を持つゆえに、震災後神戸市だけでも合計**100のまちづくり協議会**が復興まちづくりに向けて活動してきた。

とりわけ、震災以前からまちづくり活動のあった地区では、震災直後から秩序だった将来を見据えた**復興市民まちづくり活動**が直ちに始められている。

突然の緊急時には、**常日頃の身に付いた活動（知識ではなく文化として）**がまことに重要な役割を果たす。

まちづくり協議会の位置（震災後）

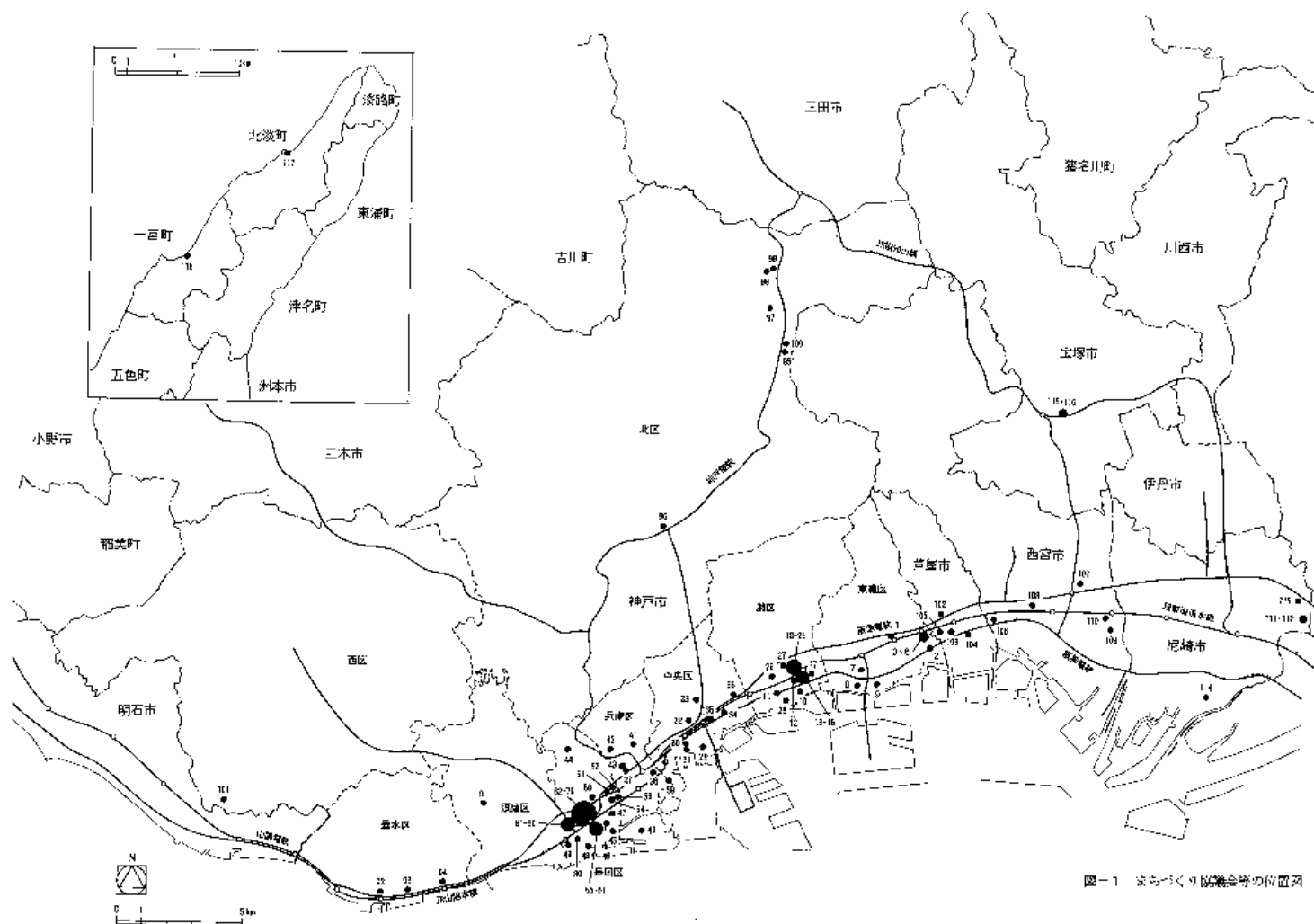
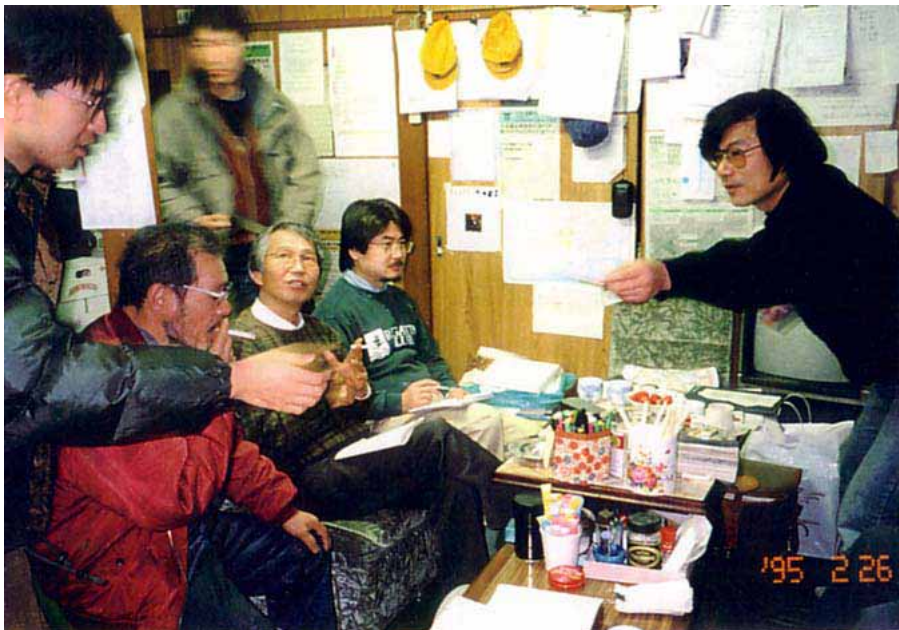


図-1 まちづくり協議会等の位置図

まちづくり協議会の様子



神戸市野田北部地区のワークショップ

芦屋市若宮地区の花壇づくり



まちづくり協議会の様子



**西宮市甲子園一番町の地区計画決定・
公園完成記念風景**

神戸市松本地区のせせらぎ清掃風景





Flow-chart of Community Development (MACHIZUKURI) System in KOBE

☆ルールづくり Social System (regulation)



☆のづくり Physical System (project)

“協働のまちづくり”の推進

—まちづくり協議会とともに—

震災復興土地区画整理事業では、住民参加の基本方針に基づき市民・事業者・行政による協働のまちづくりに取り組んでいます。

①まちづくり協議会の組織化

「まちづくり協議会」は、居住者や土地・建物の所有者等が構成員となって、住民の皆さん自らがまちづくりに取り組むための組織で、全地区・45か所で設立されています。各協議会では、これまでに幾多の会合を行い、話し合いを積み重ねるなかで、住民の皆さんの意見が反映された「まちづくり提案」がまとめられ、順次、市へ提出されてきました。



松本地区

②まちづくり専門家の派遣

まちづくり専門家は、住民への技術的な支援を行うため、全地区に派遣され、区画整理に関する勉強会資料の作成や、住民のまちづくり案検討へのサポートなど、地域の実状にあわせた多様な活動を行ってきており、住民と行政とをつなぐ重要な役割を果たしてきています。

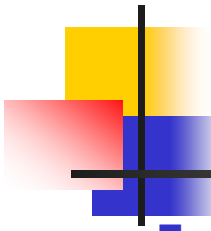
なお、専門家派遣については、1995年(平成7年)7月7日にこうべまちづくりセンター内に「こうべすまい・まちづくり人材センター」が設置され、住民の希望する専門家を派遣するシステムが確立されています。

③現地相談所の設置

現地相談所は、1995年(平成7年)4月24日に全地区に設置され、これまでに延べ約11,000名、約12,000件の相談がありました。



鷹取東地区現地相談所



復興まちづくりにおける取り組みの成果 ／土井幸平委員

- 震災後10年、県下で活動中のまちづくり協議会は約300を数える。その内訳は、概ね被災地黒地地域、同白地地域、被災地外ともに約3分の1ずつである。
- この間、県がひょうごまちづくりセンターを通じて行った、「まちづくり支援事業」（復興・一般共）は、約2,000件、総額約16億円である。その内訳は、被災地1,500件、被災地外500件である。
- 「まちづくり協議会方式」は、被災地を越えて県下に広く展開しつつある。「まちづくり支援事業」は、その推進力としての役割を果たしている。

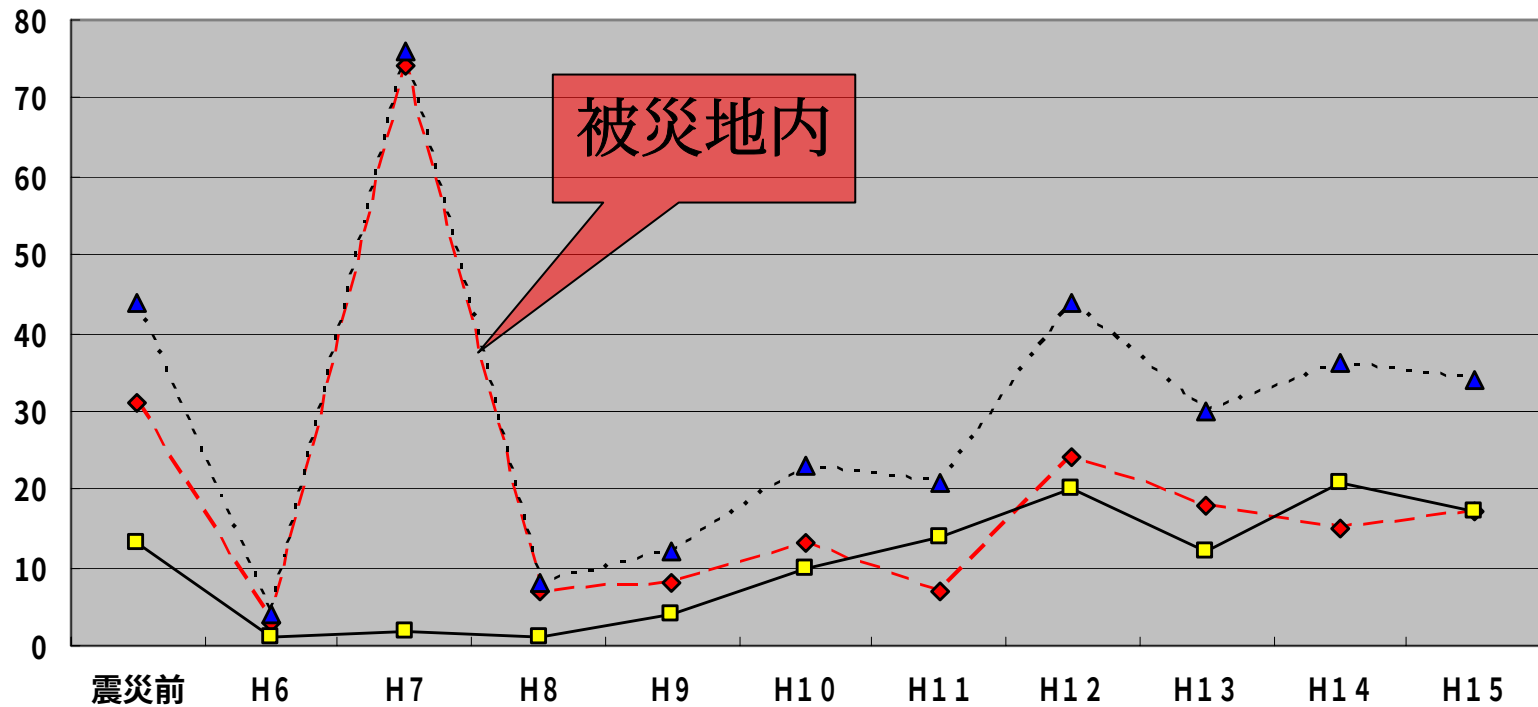
県下における「まちづくり協議会」の 年度別設立状況

件数

被災地10市10町

被災地外市町

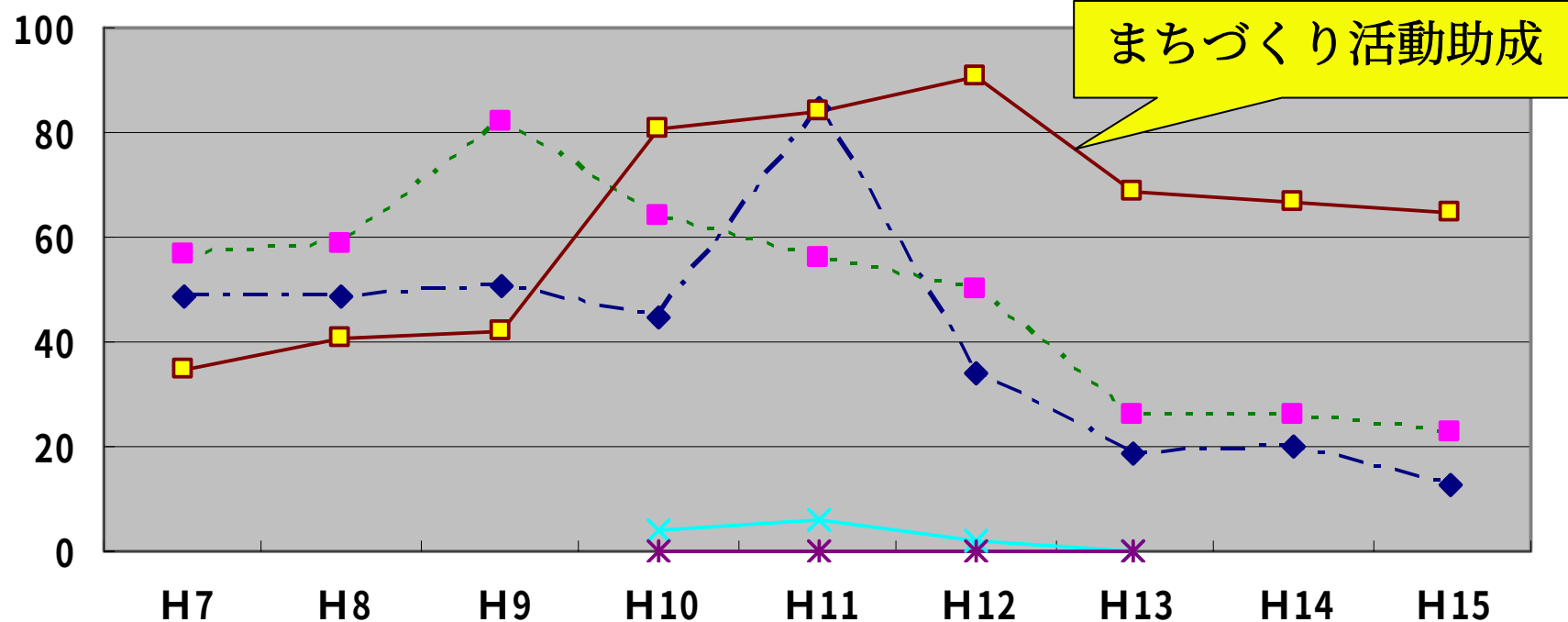
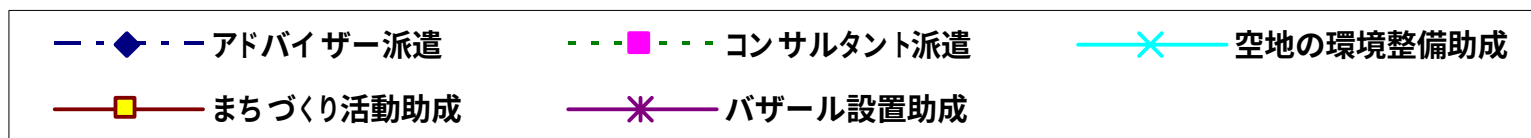
合計

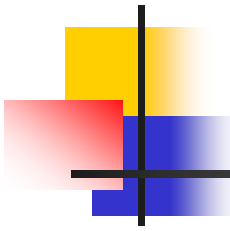


※ 現時点で解散しているまち協も含んでいる。

復興まちづくり支援事業の実績（件数）

ひょうごまちづくりセンター





実現できなかった課題／土井委員

- ①被災直後における住民と行政の対立、住民の合意形成に時間を要した
- ②「白地地域」におけるまちづくり活動の低調
- ③復興まちづくり協議会から平常時まちづくり協議会への移行の低調
- ④市町におけるまちづくり活動支援制度の未整備



まちづくり協議会の取組み

まちづくり協議会の最重要な取り組みを3つ挙げれば「安全・福祉・景観」のまちづくり（環境改善運動）である。

それらに、常日頃から、市民が自律的継続的に取り組んでいくことが重要である。

震災復興の教訓

NPO／NGO

まちづくり協議会

市民力

地域力

『ふれあい』と『つながり』

→参画と協働の現場主義

場所力

プラットホームとネットワーク



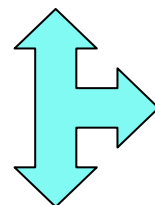
震災が生んだもの

■ まちづくり協議会→ 地域力

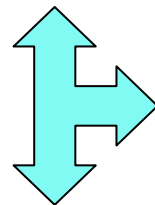
■ ふれあいセンター→ 場所力

コレクティブハウジング・芦屋だんだん畑

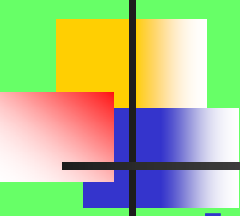
■ ボランティア・NPO→ 市民力



まちづくり
プラットフォーム
(ゆるやかな集まり)



まちづくり
ネットワーク
(ゆるやかな繋がり)



まとめー市民活動社会における合意形成 プラットフォームとネットワーク

- 「自律と連帯」を合言葉とする「市民活動社会」が21世紀の社会像である。
- そこで繰り広げられる活動の総体が「市民まちづくり」であり、「地域における、市民による、自律的継続的な、環境改善運動」と定義される。
- その市民まちづくりの鍵を握るのが「まちづくり協議会」である。
- 市民活動社会の市民まちづくりにおける倫理的論理的な社会基盤は「合意形成」であり、まちづくり協議会は、そうした合意形成のための、住民を主体とする集まり・機会・場「フラットなプラットフォーム」であり、住民を中心とした自律的で連帯した市民組織である。あるいは、あるべきである。
- また、それらの自律的な活動が連帯し、支援も含めたネットワーク化が、最大のポイントである。